

令和5年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会議事録

- 1 日 時 令和5年7月6日（木） 午前10時00分
- 2 会 場 コミュニティセンター城里 3階 大会議室
- 3 内 容

<事務局>

定刻となりましたので、要項に従いまして進めさせていただきますが、会に先立ちまして、本日の進め方について確認させていただきます。

本日の第2回選定協議会につきましては、小学校用教科用図書、特別支援学級用教科用図書の審議を行います。その後、諸連絡を行います。日程表の方で確認いただければと思います。なお、城里町の長山委員が本日欠席ですが、委任状をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、「開会のことば」を本選定協議会副会長 笠間市教育委員会教育長 小沼 公道 様お願いいたします。

（笠間市教育委員会 小沼教育長）

～開会のことば～

<事務局>

ありがとうございました。

つづきまして、「教科用図書選定協議会会長あいさつ」 添田 智 会長お願いいたします。

<会長>

本日は、令和5年度 茨城県第4採択地区第2回教科用図書選定協議会の開催に当たりまして、委員の皆様には、お忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

始めに、調査委員の先生方による、調査部会の開催状況につきまして、簡単に報告をさせていただきます。6月16日に、12の教科、領域の調査委員、37名全員にご出席をいただき、第1回目の調査部会を開催いたしました。その後、6月20日から6月26日の間に、教科・領域ごとに日にちを決めて、1回から4回、調査部会を開催していただきました。部長さんを中心に、実に熱心に、慎重に、調査・研究を進めていただき、結果を資料にまとめていただきました。

本日は、この後、各教科・領域ごとに、順に、各部長より、調査報告をいただき、委員の皆様には、質疑や審議、議決、採択理由書の検討をしていただきます。たいへん長時間に亘りますが、慎重なる協議のほどを、心よりお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。それでは採択についての審議・議決に移ります。

採択についての審議については、本選定協議会規約第9条によりまして、議事の進行は会長が行うこととなっております。添田会長、よろしくお願いいたします。

<会長>

それでは議事に入ります。議事の進め方ですが、教科ごとに審議及び議決をしていきます。

教科の順番は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳、特別支援教育の順で行います。

各教科の議決までの流れですが、①調査部会からの報告、②調査部会への質疑、③審議・議決、④採択理由書の検討のように進めてまいります。

なお、机の上に教科用図書を用意いたしましたので、適宜ご覧をいただきますようお願いいたします。

それでは、はじめに国語調査部会からの報告をいただきたいと存じます。事務局は、調査報告書の配付をお願いいたします。

調査報告書配布

国語調査部長入室

<会長>

それでは、国語部会の報告をお願いします。

<国語調査部長>

小学校国語部会での調査内容について報告いたします。

小学校国語部会では 東京書籍、教育出版、光村図書の3社について調査をしました。その結果をまとめたものがお手元の資料です。それぞれの教科書に学習指導要領の国語科目標達成のための、様々な工夫や配慮が示されておりました。その中で、初めに、国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力の育成のための工夫について説明させていただきます。

まず、東京書籍では、螺旋的・反復的に「言葉の力」を身に付けられるよう構成されていることが特長です。また、表現活動の課題が発展的に設定されているため、学んだことを生かし、国語を適切に表現する資質・能力の育成が期待できます。

次に、教育出版では、生きてはたらく言葉の力を育てる言語活動を開発し、各学年に系統的に位置付けています。また、理解力や表現力を高めるために、教材ごとに重点的に学ぶ事項を設定していることも特長です。

最後に、光村図書では、日常生活に必要な国語の特質について理解し、様々な場面で主体的に活用でき、生きてはたらく知識・技能として習得できるよう、教材化や単元配列が工夫されています。また、学習指導要領に示された言語活動例が、低・中・高学年それぞれの段階でもれなく

扱えるようにしてあることも特長です。

続きまして、2点目として、主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫について説明いたします。

まず、東京書籍ですが、単元ごとに「見通す・取り組む・ふり返る」という過程が見開きで示されているため、学習の見通しをもち、ゴールを見据え、主体的に取り組みやすい構成になっています。また、話し合いやグループでの資料作成、発表など、協働的な学びを取り入れていることで、学びを深める工夫がなされています。

次に、教育出版ですが、日常生活や学校生活に関連した題材が設定されているなど、実生活に結び付いた学習活動が行えるよう工夫されています。また、身に付けた力を深い学びに近づけるため、「ここが大事」「言葉をふやそう」を設定するなどの工夫も見られます。

最後に、光村図書ですが、対話力を身に付ける「話す・聞く」の活動では、大単元以外にも、より身近に取り組める課題として、「言葉の準備運動」「コラム」「対話の練習」が設けられています。また、子どもの「問い」を引き出し、単元の目標につなげる工夫がなされているため、子どもたちが主体的に取り組みやすく、課題意識・目的意識をもって学習できるよう配慮されています。

続きまして、調査をしていく中で、特に話題となった「東京書籍」と「光村図書」の教科用図書について説明いたします。特に、特別な配慮が必要な児童や、児童が主体的に学ぶことができるようにするための工夫についてです。

東京書籍では、特別支援教育の知見を生かして開発された指導法「多層指導モデルMIM」を取り入れています。また、教科書紙面上の二次元コードからアクセスするデジタルコンテンツを豊富に用意しており、授業や家庭学習のあらゆる場面で活用できるようになっています。

光村図書では、独自に開発した「光村教科書体」を用いるとともに、教材内容の理解を助け、イメージを豊かに広げられる絵や写真などを随所に掲げてあります。また、教科書連動コンテンツ「広がる学び 深まる学び」が設定してあり、参考になるコンテンツが、6学年で200点以上収録されてあります。

以上のように当調査部会としましては、「東京書籍」と「光村図書」の2社の教科書は、それぞれ優れた点が多くあり、独自の配慮や工夫がされている内容であるとの結論となりました。

以上で小学校国語科についての説明を終わります。

続きまして、「書写」について説明いたします。

書写につきましても、東京書籍、教育出版、光村図書の3社の調査を行いました。学習指導要領の教科の目標を達成するために次の観点について各社の特色を申しあげます。

観点1 文字を形や筆順に注意して正しく書く

観点2 組み立てを理解し漢字や仮名の大きさ配列に注意して書く

観点3 文字の大きさや配列書く速さや穂先の動きを意識して書く

初めに東京書籍です。低学年では、「とめ・はね・はらい」特定のイラストが何度も出てきて

いてわかりやすくなっています。また、大切なポイントを示すときには、ユニバーサルデザインフォントを使用し、他社と比べて手書き文字に近く、見やすい文字になっています。さらに、単元が、硬筆から毛筆、再び硬筆、最後にふり返り、という流れになっているため、毛筆を使用する学習が、硬筆で書く力の基礎になるよう配慮されています。

次に教育出版です。毛筆の学習では、朱墨との二色刷りの手本を大きく取り上げているため、穂先の通り道が分かりやすくなっています。

最後に光村図書です。単元名などには、教科書体ではないユニバーサルデザイン書体が使われています。また、1年生の教科書では、とめ・はね・はらいの箇所に特定のキャラクターを用い、繰り返し掲載することで、視覚的にわかりやすく工夫されています。さらに、「とまってぴよん」など、文字の整え方のポイントを、写真、解説文を用いて示し、手本の近くにレイアウトされています。

続きまして、調査をしていく中で特に話題となった「東京書籍」と「光村図書」の教科書についてさらに説明をさせていただきます。はじめに、学習指導要領の教科の目標を達成するための工夫について説明いたします。

東京書籍では、「世界に広げよう」や「学びに生かそう」において、リーフレットやポスターの書き方など、国語や他教科と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写の能力を身に付けるための配慮が見られます。

また、光村図書では、インタビューメモやパンフレットの書き方など、国語と他教科とを関連付けた言語活動を幅広く取り入れているとともに、SDGs 達成に向けた書写活動が紹介されていることも特長です。また、1年生では「しよしやスタートブック」、3年生では「毛筆スタートブック」、4年生では「SDGs ブック」、6年生では「書写ブック」などを設定し、それぞれの学習の確認やまとめに活用できるようになっています。

続きまして、児童の使いやすさに対する配慮ですが、東京書籍は、QR コードが掲載されており、最初から最後までノンストップの動画が見られるため、筆を直したり、墨をつけたりするタイミングが分かりやすくなっています。

光村図書でも QR コードが掲載されており、こちらは動画の途中でポイントが提示されたり、ねらいとなる部分は動画が繰り返し示されているなどの工夫が見られます。

以上、どちらの教科書も優れた細かな配慮・工夫が見られます。

以上で書写に関する説明を終わります。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

国語の調査報告書で「東京書籍」の2番目の内容の最後の部分「QR コンテンツには、デジタルノートや資料動画、モデル動」で切れてしまっているが続きは何と書いてありますか。言葉でも

いいので説明いただけますか。

<国語調査部長>

「モデル動画が示されています」という部分になります。

<委員>

4年前と比べてQRコードがわかりやすく、以前よりもたくさん見られるようになったと思うのですが、調査委員からみてQRコードの使い勝手というのはどうですか。

<国語調査部長>

少し「東京書籍」の内容の方が発展的で難しさがあるかなと思いました。

<委員>

発展的なものをQRコードから読み込んだ資料を活かして、学ばせたいという意図があるのかもしれないですね。

<委員>

3社のお話をいただきましたが、その他にも出版社あり、それを全部調べたうえで、この3社が良かったということですか。

<国語調査部長>

元々、3社のみです。

<委員>

教科書選ぶときに、接待か何かをして問題になった会社があったと思うのですが、どのような対応となっていますか。

<会長>

この件については、事務局で説明します。具体的には「大日本図書」という会社です。昨年度起きた案件で、中学校用の教科書を採択する前にその問題が発生し、「大日本図書」の中学校用の教科書が検定を通りませんでした。ですので来年度、「大日本図書」が新しく作った教科書は検定を通過していないので、新しい教科書は、こういう場にとってこないということです。今回は、小学校で、大日本図書は検定を通過していますので特に問題はありません。

<委員>

選んでも問題ないということですね。ありがとうございます。

<委員>

この調査報告書の中の学習指導要領に「内容の程度及び取り扱いの中に主体的・対話的で深い学び」とあり、「対話的な学習を促す工夫」や「共に学ぶ工夫」が以前よりも盛り込まれていると思います。それを元に部会で検討した中で、「東京書籍」と「光村図書」が優れているということでしたが、部会としてどちらがより優れていると思いますか。

<国語調査部長>

「光村図書」は、何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかということが明確だという話ができました。「東京書籍」は、言葉の力など、螺旋的にどんどん学びを積み重ねて、主体的な学習を行えるという話ができました。

<会長>

調査部会の中では、なかなか甲乙つけがたいということですか。あえて言っていた方が我々としては、調査部会の判断を尊重したいという気持ちがありますので。

<国語調査部長>

小学校の国語と書写の教科書が同じ出版社の方が望ましいという話はできました。もう一つ出たのは、2年前に1人1台端末が始まり、ICT活用とこれまでの優れた教育実践のベストミックスで、「東京書籍」の教科書で学んできましたので継続させた方がいいという意見もできました。

<委員>

今使っているのは「東京書籍」ですか。

<国語調査部長>

はい。「東京書籍」です。

<委員>

継続した方が、使い慣れているということもあり、先生は使いやすいということはありませんか。

<国語調査部長>

国語と書写の教科書が別々の会社ですと、出てくる漢字の順番が違うので、その点で少し難しさがあります。

<委員>

国語と書写で同じ会社がいいけれど、今までは「東京書籍」の教科書を使ってきたと思います。

それでは、継続して同じの会社の方が先生は使いやすいのではないですか。

<委員>

調査部会では、今まで通り「東京書籍」の方がいいのか、または「光村」で国語と書写がセットになっている方がいいのかどちらですか。

<国語調査部長>

書写は「光村」の方が優れています。ですので、国語も「光村」が良いかなと思います。申し訳ありません。どちらも優れていまして。

<委員>

どちらも優れているし、先ほどのお話でも優れた細やかな配慮がなされているとなると、やはり選定していくには根拠が必要になると思います。根拠を明確にしていくことが大事なことで、そこを共通にどこからどのような判断がでた時にも、こういうことでこちらにしたというところに行き着くのかなと思います。調査部会では、どう思いますか。

<国語調査部長>

「東京書籍」の教科書でICTを活用し、今までやってきた教育的実践のベストミックスでこの2年間やってきて国語の力をつけてきているということを考えれば、現状の「東京書籍」がいいかと思います。

<委員>

今は自分の意見も話していいんですか。

<会長>

この後、部長さんが退出して審議という場がありますが、明確に分ける必要もないと思いますのでどうぞ。

<委員>

タブレットが1人1台入り、教育現場がすごく変わってきてるところだと思います。先生たちもやっとそれに慣れてきて、ここでまた教科書が変わると、先生の負担が増えると思ったので、教科書が継続されている方がスムーズに行くのかなと思います。

<国語調査部長>

調査部会でもそのように思っていますが、どうしても国語と書写で同じ会社の方が使いやすいというところが引っかかっているところです。

<委員>

どういうところが引っかかっているのですか。

<国語調査部長>

書写と国語の教科書が別々ですと、漢字の出てくる順番が違うので、指導が少ししにくいです。

<委員>

書写は「光村」がいいということですよ。

<国語調査部長>

今まで使ってきたというところもあります。

<委員>

今は、書写は「光村」で国語は「東京書籍」でずれているということですね。

<国語調査部長>

はい。そうです。

<会長>

その他、ご質問等はいかがでしょうか。

それでは、国語の調査について、大変お世話になりました。ありがとうございました。

国語調査部長退室

<会長>

それでは、ただいまより審議をいたします。何かご意見のある方は挙手をお願いいたします。

先ほどの調査部長さんの回答などをまとめると、国語は「東書」、書写は「光村」ということで、教科書がずれてしまうのですが、これは仕方ないということでもよろしいでしょうか。

<委員>

今まで「東書」を使ってきた先生方が、タブレットも使い始め、慣れてきているところだと思うので継続すべきだと思います。先ほどの話の中で、書写と同じ会社の方がいいという話がありましたが、教科書の良さから考えて「光村」という話が出るのであれば、年間の中で漢字の出る順番が違って、習うものは同じなので、我々は教科書の良さを優先した方がいいのかなと思います。

<委員>

先ほど調査部長が国語と書写は同じ会社がいいという話がありましたが、子供達、先生方が使いやすいということであれば、良いものを渡してあげた方がいいと思います。国語は「東書」、書写は「光村」の方がいいのであればそれを採択すべきだと思います。実際に子供達の点数が上がるかは分かりませんが、第4採択地区で選んだ教科書で子供達のレベルが上がっているのであれば、それが正解ですし、そこを前提に考えると先生が使いやすいというのが1番だと思います。タブレットなどが普及していったときに、今までどおりというわけではないが、国語は「東書」、書写は「光村」で頑張ってもらいさらにレベルを上げていってもらえればと思います。

<会長>

その他にご意見がなければ、国語は「東京書籍」、書写は「光村図書」の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

次に、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

こちらは調査報告書を元に事前に調査部会で作成したものでありますが、何かご意見はありますか。

<委員>

今、「東京書籍」と「光村図書」を選びましたが、違う会社を選んだ場合、違う会社の理由書を用意していたということですか。

<会長>

はい。そういうことになります。

<委員>

この採択理由書というのは、その教科書の特徴が書いてあると思うのですが、ここで議論した、国語と書写は一致した方がいいという意見や継続性を重視した方がいいという意見、漢字の順番

がずれてしまうなどの内容は理由書には書かないのですか。

<委員>

こういった選定会議では、きちんと議事録が公開されます。理由書はこの形で、議論した内容は議事録にしっかり記録・公開されるので、両項目の面も十分に補充されると思います。

<会長>

我々の発言内容はすべて議事録として残しますので、紙面では特徴を列挙した内容ですが、審議した内容はすべて残りますので、この形でよろしく願いいたします。

<委員>

理由書の「特別支援教育の知見を生かして開発された指導法「多層指導モデルMIM」を取り入れている」というのは、教科書のどこにあたるんですか。

国語調査部長入室

<国語調査部長>

通常の学級において読み書きのしづらさのある子供達に対する支援の仕方に関する指導法です。

<委員>

それを教科書に取り入れているということですか。例えば教科書のどのあたりですか。

<国語調査部長>

低学年1年生の教科書です。文字の大きさが「光村」よりも大きく、読みづらい子に配慮されています。

<委員>

指導法とかではなく、このモデルを使っているということですね。

<国語調査部長>

指導法ではなく、教科書そのものが対応しているということです。また、通常、文末が揃うと思うのですが、文末が切れないように工夫されています。

<委員>

それは、全学年で対応されていますか。

<国語調査部長>

特に低学年です。

<会長>

単語の途中で切れずに、文末は揃えていないということですね。

<国語調査部長>

はい。揃っていません。

<委員>

使いやすさというところをメインに話、記述されているのですが、子供達を使うので子供達にとってよりこちらの方が良いというような内容についてはどうですか。例えば「光村」と「東書」では、こちらの教材の方が子供にとって読みを深められるな、内容の良さの違いってというのは何かございましたか。

<国語調査部長>

各単元のゴールが見えるような構成になっているというのが特徴だと思います。

<委員>

それは書かれているので分かりましたが、教材そのものの何か良さというものはありましたか。

<国語調査部長>

特に話題にはでなかったです。

<会長>

他にございますか。

なければ、採択の理由につきましてはこちらでよろしいですか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

国語調査部長退室

調査報告書配布

社会調査部長入室

<会長>

それでは、社会部会の報告をお願いします。

<社会調査部長>

社会科部会での調査内容について報告させていただきます。

まず始めに教科書では3社について調査いたしました。その結果をまとめたものがお手元にある資料です。その資料をもとに、各教科書の特徴について、ご報告させていただきます。

1社目の「新しい社会」東京書籍について報告いたします。他社に比べて最も大きな特徴は、5、6年生が分冊になっていることです。分冊にすることで、児童の持ち運びについて配慮がされています。

次に、項目ごとに説明いたします。

1点目は全単元に、単元のめあてや小単元の学習問題の記載があり、本時のめあても「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」で統一され、問題解決的な学習が進めやすいよう工夫されています。学びを広げるQRコンテンツが他社に比べて多く、その学習に必要なデータがすぐ見付かり、深めることができるようになっています。

2点目は、「時間や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」で分類し、問いの例示がたくさんあります。また、比較検討や分類・整理といった考え方も提示されています。

3点目は、各単元に見開きのページがあり前学年で学んだことと当該学年で学ぶ内容が掲載され、学習内容の連続性や関連性が分かり、見通しをもつことができるようになっています。第6学年の巻末には「中学校に向けて」のページがあり、社会科学習の見通しがもてるように工夫されています。これは他社にはなかったところです。

4点目は、5、6年生の分冊と、教科書本文に独自の教科書体を用いているところです。語句の説明や学びのポイントなどにはユニバーサルデザインフォントを用い、使い分けをしています。また、写真や図版、各種資料の色調が柔らかく、カラーバリアフリーにも配慮されています。

次に、2社目の「小学社会」教育出版について報告いたします。他社に比べて、ページ数が多く、資料等の量が多く、図表の大きさがあり、見やすくなっています。

次に、項目ごとに説明いたします。

1点目は、単元に関連する分野で活躍している人物の話を複数紹介し、多様な立場の考えに触れられるようになっています。また、対話文なども多く、他の資料も活用し多角的に考えられるよう工夫されています。

2点目は、巻頭と単元の中でキャラクターのふき出しでヒントが書かれています。太字にして

見やすくなっており、児童がその視点や方法に沿って思考できるよう工夫されています。地域や社会の、これからについて「構想」する場面を「つなげる」として取り上げ、発展学習の充実を図っています。

3点目は、巻頭に、「前学年の学習の振り返り」「学習の進め方」「社会科で使う見方・考え方」が提示してあります。また、見通しをもって単元の学習に臨むことができるように、現在の学習場面を確かめられる「インデックス」として提示してあります。

4点目は、6年の歴史ページで、これまで白黒写真で掲載されていた写真に色をのせ、カラー写真として掲載し、当時の出来事をより身近にとらえ、児童の関心と学習意欲を高めています。また、読むことへの困難さや色覚の個人差に配慮した、UD デジタル教科書体やカラーユニバーサルデザインが使われています。

3社目の「小学社会」日本文教出版について報告いたします。この教科書の特徴としては、資料の豊富さが挙げられます。写真資料や図表が豊富で、資料集としての役割ももつ教科書となっています。

1点目は、学習内容に関連する「見方・考え方コーナー」を設定してあり、社会的事象同士の関連について考えたり、多角的に考えたりできるよう工夫されています。また、単元終末の「学び方・調べ方コーナー」で、これまで学習してきたことをまとめたり、深めたりするために多様な「表現する」方法を取り上げ、学習を「ひろげる」ことができるよう工夫されています。

2点目は、社会的な見方・考え方を育むために、本文中に登場するキャラクターから出てきた見方・考え方を示すなど工夫がなされています。

3点目は、「学び方・調べ方コーナー」により、観察力・資料活用能力や表現力を習得しながら学習を進める構成となっています。本文は、3つに分けられ、学習の展開や流れ、疑問を解決するための資料活用により、友達の考え方を知ることによって自分の考え方と比較できるようになっています。

4点目は、本文のフォントのサイズを大きくし、UD デジタル教科書体を取りいれています。色だけではなく、斜線やドット柄も使用し配慮されています。教科書は、見開き2ページで構成されています。

以上の3社の教科書を調査し、調査部会としては、「新編 新しい社会」東京書籍が、「主体的・対話的で深い学び」を進め、問題解決的な社会科学習と児童の学びを広げることのできる教科書であるという意見にまとまりましたことを報告いたします。なお、次点としては「小学社会（教育出版）」が挙げられました。

以上で、社会科教科書の報告を終了させていただきます。

<会長>

続いて地図につきましてもお願いします。

<社会調査部長>

「地図」については、2社を調査いたしました。

まず1社目として、「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」帝国書院について報告いたします。最も大きな特徴としては、3年生から6年生まで4年間を見通した内容と、もう1社よりも30ページ多い132ページという大容量の地図です。次に、項目ごとに説明いたします。

1点目は、全編にわたって、主体的な学びを促すための問いが掲載されていることです。また、該当学年で必要な内容を絞った地図が段階的に数種類ずつ掲載されています。例えば、3年生でも読み取りやすい簡略化された地図、6年生の歴史学習でも活用できる地図など、4学年にわたって活用できるよう編集されています。

2点目は、主体的な学びを促す問い「トライ!」「地図マスターへの道」が設置してあり、地図活用のスキルや社会的知識が身に付くように工夫されています。また、デジタルコンテンツを活用した資料が多く、各ページに二次元コードが掲載されています。児童が各自調べたい項目について、広く深く学ぶことができます。地図帳のデータが古くなった場合でも、常に最新のデータを得ることができるという特徴もあります。

3点目は、巻頭に「地図のやくそく」や「地図の使い方」について14ページ分を使い、丁寧にわかりやすく説明してあります。地図に初めて出会う入門期の3年生にとって見やすく理解しやすい内容となっています。歴史学習や持続可能な社会の実現にむけて「SDGsの視点を養える資料」等の特設ページを設け、他教科にも活用できる内容となっています。

4点目は、通常の地図は4色刷ですが、独自のクサ色を加え、5色で印刷されており、土地の様子が鮮やかに見やすく表現されています。色味が穏やかで優しく、児童の特性に配慮されています。すべての表記には、ふりがながついていて、3年生の児童にも配慮されているとともに、正しい地名を覚えるための手立てがなされています。また、文字の視認性を高めるため白色のフチを採用し、独自開発したユニバーサルデザインフォントを活用し、インクルーシブ教育への対応がされています。はじめに申し上げましたが、132ページという大容量ながら、紙の軽量化を図り、全体の重さを抑えて児童が活用しやすい配慮がされています。

続いて2社目の「新編 新しい地図帳」東京書籍です。最も大きな特徴としては、見やすく学びやすい地図であり、児童が楽しく学べること、東京書籍の教科書に沿った内容であることです。次に、項目ごとに説明いたします。

1点目は、授業で地図帳を活用できるよう、事例とされる地域のドローン動画がQRコンテンツに掲載されています。また、理科や家庭科などでも活用できる主題図を設けるなど、様々な教科で活用できる工夫がされています。さらに、社会科見学につながる学習を進めることが出来て効果的であります。

2点目は、東京書籍の教科書に沿った内容が展開されており、授業で活用することで社会的な見方・考え方を育むことができます。

3点目は、デジタルコンテンツを活用した資料が多く、各ページに二次元コードが掲載されており、児童が各自調べたい項目について、深く学ぶことができるようになっています。ただ、深いところまで探らないと資料が見つからないという点はございました。また、地図に親

しめるクイズコンテンツ、動画コンテンツ、ウェブサイトへのリンクなども多くありました。

4点目は、キャラクターが子供らしい表現で地図の仕組みなどを解説することで、地図に親しみながら技能を身に付けられるよう配慮されています。すべての表記には、ふりがながついていて、正しい地名を覚えるための手立てがなされています。

以上、2社の地図帳を調査し、調査部会としては、帝国書院の「楽しく学ぶ小学生の地図帳」が、児童の深い学びやタブレット等を活用した学びに適しているとの意見にまとまりましたことをご報告いたします。

<会長>

ありがとうございました。それでは、質疑に入ります。質問がある方はお願いいたします。

<委員>

東京書籍の6年生が2冊になっているのは、前回も同じですか。

<社会調査部長>

前回も分冊になっております。

<委員>

はい。わかりました。

今回は、3社のみですか。他にもあり、3社に絞ったのですか。

<社会調査部長>

3社を提示していただき、3社とも調査いたしました。

<委員>

社会については「東京書籍」、地図については「帝国書院」ということで、それぞれ会社が違っていても支障はありませんか。

<社会調査部長>

地図の「帝国書院」は地図の専門ということもあり、内容の豊富さについても他社と違うところがあります。教科書と会社が違っていても問題はないと思います。

<委員>

今のお話だと「帝国書院」は地図だけで、教科書はないということですか。

<社会調査部長>

社会に関しては、教科書はございません。

<委員>

現在使っている会社名は何ですか。

<社会調査部長>

現在は、「東京書籍」の教科書と「帝国書院」の地図を使用しています。

<委員>

社会科は問題解決学習をしたいと思います。1時間ごとの学習課題など連続した学習ができるように単元のスタートの把握から最後のまとめまで、どの教科書もそういう形ではできていますか。

<社会調査部長>

どこの会社も常に今何をどこの段階かということが提示されているなど、単元の最初には流れと最後につなげるという意識をして、どこの会社も作られていたと思います。

<委員>

そうした中で「東京書籍」と「教育出版」の両方が優れているが、部会としては「東書」の方がいいと思ったということですね。

<社会調査部長>

写真などの資料についても、同じものを見比べて検討したのですが、例えば歴史の絵図の切り取り方や、大震災のときの写真・資料の適切さ、そういったところを検討し「東京書籍」の方がふさわしいと判断しました。

<委員>

その写真から読み取れるものが「東書」の方が良かったということですね。

<社会調査部長>

大事なものを切り取って載せている写真は、「その外側の大事なことが見えないよね」というような、授業をしている授業者の生の声がありまして判断いたしました。

<委員>

分冊についてお聞きします。私もランドセルでたくさんの教科書を持って行くのは、重くて大変だなと思っていたので、分冊にすることで軽くなるならいいかなと思っていたのですが、その辺の

反響などはありますか。

<社会調査部長>

5、6年生になると教科書は重くなります。6年生については、流れが行ったり来たりはするのですが、でも軽い方が使いやすいと思います。

<委員>

他の教科書でも单元ごとに分けるという流れはないんですか。

<社会調査部長>

すみません。他の教科書についてはわかりません。

<委員>

でも、こちらの方がコストはかかっていますよね。

<社会調査部長>

はい。そうだと思います。

<委員>

地域のドローン動画というのはどこを見ればいいのですか。

<社会調査部長>

強く勧めているのは「東京書籍」の地図帳の7、8ページです。「帝国」の方にもございます。今時のデータかなと感じました。

<会長>

「帝国」の地図にもあるんですね。

<社会調査部長>

はい、ございます。すぐに2次元コードから飛んで、欲しいデータが見つかるのは「帝国」の方が多いです。「東京書籍」は、大きなものから探って探って深いところまでいかないとなかなか見つからなかったということがございました。

<会長>

他にございますか。なければ質疑を終了いたします。

調査部長さんには、短期間での調査、大変お世話になりました。ありがとうございました。

社会調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。社会の教科書は「東京書籍」、地図は「帝国書院」ということで調査部会から報告がありましたが、ご意見があればお願いします。

なければ、社会は「東京書籍」、地図は「帝国書院」ということでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

続いて、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

採択理由書について、何かご意見のある方いらっしゃいますか。

なければ、採択の理由はこちらでよろしいですか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布

算数調査部長入室

<会長>

それでは、算数部会の報告をお願いします。

<算数調査部長>

算数部会での調査内容について、ご報告させていただきます。

算数部会では、6社の教科書について調査をし、その結果をまとめたものがお手元の資料です。その資料を元に、各教科書の特徴、特によい点について簡単にご報告させていただきます。

「東京書籍」の特徴は、次の4点になります。

1点目は、全学年において、吹き出しや補助発問を必要に応じて設けるなど、分かりやすく丁寧な問題解決の学習展開を通して、基礎的・基本的な概念や性質、技能が身に付き、それらの意味なども理解できるように構成されています。

2点目は、第2学年以上の全単元で、単元導入時に「単元プロローグ」、単元末に「つないでいこう算数の目」を設け、単元全体のめあてを見出したり振り返り活動を取り入れたりすることによって、対話的な学びを重視する構成になっている点です。

3点目は、学習後の基礎的・基本的な概念や性質の理解、技能の維持・強化が図ることができるよう、単元と単元の間には復習の時間「おぼえているかな？」を設けている点です。

4点目は、授業の1時間毎の区切りにベルのマークが記載されたり、単元末の練習問題において、15分を目安にした区切りのマークが記載されたりしている点です。モジュール学習等の短時間学習で使用するなど、弾力的な時間割編成に対応できるよう配慮されていると考えます。

続きまして「大日本図書」の特徴は、次の5点になります。

1点目は、2年生以上の教科書を一冊にまとめてあるということです。そのため、当該学年で学習する内容を年間を通して見通すことができ、既習事項の確認や学び直しが容易にできるようになり、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けるのに有効であると考えます。さらに、1年生は、A4版とB5版の分冊となっています。これは、スタートカリキュラム対応として、就学前の遊びや体験を生かしながら、楽しく算数の授業に参加できるよう配慮されています。

2点目は、学習問題を見開き右ページ、問題解決方法を次ページ左側に配置する構成が多く、個別最適な学びと協働的な学びが実現できるよう工夫されている点です。

3点目は、練習問題が豊富なことです。毎時間の適用問題はもちろん、単元末には「たしかめ問題」や「算数たまたまばこ」、単元間には「復習」と多数問題を用意し、基礎・基本から発展・応用的な内容まで網羅されています。個に応じて、主体的に学習を進めることができるよう配慮されています。

4点目は、2次元コードが必要に応じて多数印刷されています。全学年合計約1,400印刷されています。タブレット端末で読み取ると、学習内容に関連した動画や図、練習問題等が提示され、特に計算問題では、タブレット上に筆算や途中式を書くことができます。児童の興味・関心を高めたり、個別最適な学びに対応したりすることができるよう工夫されています。

5点目は、全学年に「プログラミングにちょうせん！」というページを設けている点です。2年生以上は、アンプラグドとビジュアルプログラミングが両方掲載されています。1年生の教材は1つですが、選択可能となっています。継続的にプログラミング学習に取り組むことで、プログラミング的思考を育み、算数への学びにつなげています。

続きまして「学校図書」の特徴は、次の3点になります。

1点目は、各単元の導入で「はてなを発見」を設け、学習内容に関連した身近な話題や既習事項から見つけられる新たな課題を提示し、日常の事象における課題を数理的に捉える機会を意図的に設定している点です。

2点目は、2年生以上には、児童のつまずきやすい内容をもとにした「算数パトロール隊」が設けてあり、単元で学習したことを振り返ることで、基礎的・基本的な知識や技能の定着が図れるよう工夫されている点です。

3点目は、1～5年生は、A B版上下2冊、6年生はA B版1冊と分冊「中学校へのかけ橋」となっています。他社はB版が多い中、紙面が大きいので見やすくなっています。また、定規やコンパス、分度器等を使用する際、書き込めるスペースが大きく取ってあったり、手順に従って連続的になるような図や写真が掲載されたりしているため、技能の習熟が図りやすくなっています。さらに、中学校への接続を意識した分冊「中学校のかけ橋」も他社にはないもので、算数・数学の系統性が意識できるよう工夫されています。

続きまして「教育出版」の特徴は、次の3点になります。

1点目は、各単元末のまとめに掲載されている「4コマ漫画」です。他社にはないもので、単元の学習内容を4コマ漫画にまとめ、学んだことのよさや数学的な見方・考え方を楽しく振り返ることができるよう、工夫されています。

2点目は、各単元の中で問題発見・解決の過程を「はてな」「なるほど」「だったら」の吹き出しで示し、問いが連続するよう工夫されている点です。

3点目は、各単元末に「学んだことを使おう」を設け、算数を使って日常の問題を解決したり、何ができるようになったかを実感したりする活動を取り入れています。さらに、学年末の「算数を使って考えよう」では、全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえ、学習したことを総合的に活用する問題を配置し、算数のよさを実感しながら読解力・表現力が育つよう配慮されています。

続きまして、「啓林館」の特徴は、次の4点です。

1点目は、毎時間「学びのめばえ」や「学習のめあて」、「学習のまとめ」が例示されており、課題解決の見通しをもったり、解決過程を振り返ったりしながら、児童一人ひとりが算数における見方・考え方を働かせられるようなつくりになっている点です。

2点目は、新しい単元に入る際に「じゅんび」というページを設け、児童の日常に起こり得る事象を例にして、既習事項の確認や技能の復習ができるよう工夫しています。さらに、「これから学習することのめあて」をそのページ下部に設け、この単元で身に付けたい力や単元の目標等を意識できるようにしています。

3点目は、様々なキャラクターがヒントや考え方等を吹き出しに書いていますが、「見方・考え方マーカ―」というもので価値づけたい部分を強調することにより、数学的な見方・考え方を働かせ、総合的・発展的に考えられるよう工夫されている点です。

4点目は、他社では1つの単元で構成されているものが、複数の単元に分かれている点です。特に5年生の「割合」については、他社では1つの単元で構成されていますが、啓林館では3つの単元に分けて構成されています。児童にとって、なかなか内容の定着を図ることが難しい単元を分割することによって、時間を確保しながら、より丁寧に習熟度に応じて取り扱うことができるよう工夫されています。

続きまして「日本文教出版」の特徴は、次の3点になります。

1点目は、各単元前に「次の学習のために」を設け、これから学習する内容に関わる既習事項を確認してからその単元に入れるよう工夫されている点です。

2点目は、各単元末にある練習問題「わかっているかな」において、「まちがしやすい問題」や「見方・考え方をみがこう」を設け、単元内でつまづきやすい所や大切にしたい見方・考え方を確認し、定着を図れるようにしている点です。

3点目は、巻末の「算数マイトライ」では、「しっかりチェック」「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の3部構成となっており、児童一人ひとりの学習状況や実態に応じた知識・技能の習熟や定着を図れるよう配慮されている点です。

続きまして、調査をしていく中で、特に話題になった2社の教科書について、更に説明をさせていただきます。

はじめは、「大日本図書」です。先ほども申し上げましたが、紙面の構成としては、右側のページと次のページ左側で1時間扱いにしている構成が多く見られます。右側のページで本時の学習課題を把握し、予想を立てて調べ方を考えるよう促しています。その単元の学習でポイントとなる考え方の場合には、自分の考えを書き込むスペースを広く設けている場合もあります。そして、次のページには、複数の考え方が示され、その考え方を言葉や式、図等で説明する活動を求めています。このような紙面構成は、見通しをもち筋道を立てて考え、解決方法を表現する能力を育成するのに有効であるだけでなく、数学的活動の楽しさやよさを味わわせることもできると考えます。さらに、学習課題に目を向けると、児童の日常生活や実社会の中から取り上げたり、実測や作図等の作業を伴う課題を多く取り入れたりすることによって、児童が興味をもって主体的に活動に取り組めるよう、配慮されています。

次に、この教科書では、問題を解決するための手段として、数直線を重要視しているのも特徴です。演算決定は、多くの授業場面で課題となっている内容です。5、6年の教科書では、後半に「数直線図のかき方」のページを設け、数直線を用いると数量関係の把握がしやすいことに加え、演算決定がしやすいことを説明しています。

最後に、2年生以上の教科書の巻頭に、数学的な見方・考え方を育み、思考力を伸ばす「算数の大切な考え方」を新設しています。常に働かせたい見方・考え方を「いつも使う考え方」として示し、単元毎に使い分ける考え方を「ひらめきアイテム」として書き込めるよう示しています。単元の学習で登場した数学的な見方・考え方を巻頭シートに1カ所に記録することにより、以後の学習で活用しやすくなるよう工夫しています。

次は、「啓林館」です。先ほども申し上げましたが、「学習のめあて」と「学習のまとめ」が対になって例示されているため、毎時間、学習の目標を見失わずに、また、1時間の学習を進められよう配慮されています。これにより、教師も児童も見通し立てながら学習を進めることができると考えます。

次に、学習を進めるに当たって、人物やキャラクターの吹き出しが多用され、問題解決のためのヒントが示されたり、既習との違いに気付いたり、数学的な見方・考え方に気付いたりできるような工夫が見られます。これにより、児童一人ひとりが、主体的に学習を進められるようにし

ています。学習の具体的な方向性が把握しやすいという点では、児童にとって学びやすいと考えます。

次に、この教科書では、問題を解決するための手段として、テープ図や線分図、関係図や数直線図など、問題と考え方に応じた多様な図を用いていることに特徴があります。1年生のブロックなどの具体物での操作図から2年生のテープ図というように、発達段階を考慮しながら繰り返し活用し、6年生の「線分図」まで、児童の見方・考え方に合った図の提示により、数量関係の把握がしやすく、それに伴って演算決定もしやすくしているという工夫があります。

次に、この教科書では、2次元コード数が約1,600掲載され、6社の中で最大数となっています。「動かす」「動画」「解説動画」「問題」「スライド」「その他」と必要に応じて、児童一人ひとりの学びをサポートできるよう配置されています。2次元コードの上部には、内容が一目で分かるイラストとタイトルが表示され、ICTを用いた効果的な授業展開が期待できます。

最後に、3年生以上の学年末に「SDGs 単元」を新設しています。これは、実際の社会の問題に触れることで、教科横断的な学びができ、様々な情報を整理しまとめる力、自分たちに何ができるか等を考えることができます。答えが一つではない、多様な結論があることを知る良い機会と考えます。

以上で、調査部会からの報告を終了させていただきます。

<会長>

ありがとうございました。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

2つあがったと思うのですが、部長としてどちらが今後使うべき教科書だと考えていますか。

<算数調査部長>

非常に甲乙がつけがたいところです。「大日本図書」は、今まで使っていたという経緯もありますし、先生方にとっては一番慣れ親しんでいると思います。一方「啓林館」の方は、さまざまな工夫や、新設されている部分が多くありました。例えば単元を3つに分けているというのは、子供達にとって非常にプラスだと考えます。ただ、逆に分けたことで時間を確保できるかという不安な部分もあります。また、2つの教科書はデジタルコンテンツも充実しており、やや「啓林館」の方が数的には多いのですが、中身に関してはほとんど差がないと思われます。あえて言えば、「啓林館」の方が、例えば左利きの子がコンパスや定規を使うとき逆の使い方になると思うのですが、そういうものも動画に入っていたりするので、そういう部分については配慮されているのかなと感じます。

<委員>

「大日本図書」の方は、来年度中学校の教科書で問題があるという形ですが、もし「大日本図

書」を選定した際に、中学校との内容のつながりに問題はありませんか。

<算数調査部長>

現在も小学校は「大日本図書」で中学校は「啓林館」となっていますが、中学校の先生からやりづらいなどの話は聞かないので、問題はないと思います。

<会長>

その他いかがでしょうか。なければ、質疑を終了いたします。

調査部長さんには、調査研究大変お世話になりました。ありがとうございました。

算数調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。ご意見があればお願いします。「大日本」と「啓林館」で甲乙つけがたいという話がありました。

<委員>

同じ内容なのであれば、「啓林館」の方が分冊になっていて軽いので良いと思います。

また、先ほど「大日本図書」の話がありましたが、中学校では認められないということで、心情的な話ですが、検定も通っているので問題はないですが、会社自体に問題があるというのが社会にでていきますので、同じ内容であれば「啓林館」の方が良いと思います。

<委員>

今、ご指摘がありましたが、子供サイドに立った教科書作りという視点で調査部会も調査していると思いますので、会社に問題があるとしても、右側と左側に問題解決のために工夫した構成になっているのは「大日本図書」だけです。いろいろな問題があるとしても、子供サイドに立った気持ちで教科書を見ていきたいという思いがあります。

<委員>

今後タブレットの学習が進むとすれば、QR コンテンツが多い方がいいと思います。これからGIGA スクール構想によって、子供達がタブレットで学習するという意味では、そういう充実したものがあるということと、特別支援教育の視点に立って左利きの子供に配慮した教科書作りに取り組む考え方についても捨てがたいので、中学校と系列を揃えるというところでも「啓林館」が良いのかなと思います。

<会長>

今、2名の委員さんは「啓林館」、1名の委員さんは「大日本図書」ということでご意見をいただきました。他の方はいかがですか。

ご意見が分かれています、できれば皆さんの総意で決めたいと思いますので、ご意見をいただければと思います。

<委員>

いろいろな考え方があると思いますが、小中一貫教育という視点でみると、小学校と中学校のつながりを考えたときに、子供達が会社と一緒にの方が使いやすい、先生も指導しやすいというのであれば、同じ会社の「啓林館」でも良いと思います。

<委員>

算数というと「大日本」というイメージがずっとありましたが、先ほどの義務教育学校的なものを含めると、算数は明確に答えが出てくるものなので、「啓林館」でも良いと思います。

<委員>

中学校が「啓林館」というのは知っていたので、その辺「大日本」と比べてどうなのかなと思っていましたが、調査部長が甲乙つけがたいということであれば、「啓林館」でも良いと思います。内容的には、どちらがいいか分からないので、迷うところでもありますが、どちらでも良いということであれば「啓林館」でも良いと思います。

<委員>

甲乙つけがたいということですが、部長さんの話を聞くと「大日本図書」の方が良いかなと思います。部長さんも皆さんも迷っていますが、私は「大日本図書」も良いかなと。最終的には、総意です。

<委員>

説明を聞いた範囲で私の判断では「啓林館」が良いのではないかと思います。

<委員>

どちらも細かいところまでは見ていないですが、報告であれば「大日本」と出ていたものを、ここで「啓林館」とするのであれば、それなりの理由を明確にさせておくことが大事だと思います。いろいろな社会的なものは置いておいて、子供達の使う教科書としての内容の取り扱いが大切で、どの教科も使い方に対する記述が多いので内容面から検討したときに「啓林館」の方がふさわしいというような項目がしっかり入っていれば、誰も納得すると思います。どちらを選定するにしても、内容の面でこちらの方が良いという記述が必要だと思います。

例えば、1年生の「大日本」の教科書にお金の計算が入っています。しかし、他の教科書には

お金の計算はありません。また、「大日本」では「何円ですか？」という問いです。日本語だと「いくらですか？」というのが普通だと思います。どう判断していいかわかりませんが、扱う内容での比較をもう少し見ていかないとどちらが良いというのは、上手く伝えきれないのかなと思います。

<会長>

大変、甲乙がつけがたく委員の皆さまの意見も分かれているようですが、「啓林館」の方が多いようですので、「啓林館」で決定をしてよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<委員>

理由書を見ると丸の5つ目の「日常の事象における課題や既習内容を問題として取り上げている」という点が入っています。こういう内容をきちんと取り上げているという点が大事なのかなと思います。

<会長>

例えば、「日常の事象」とはどういうことなのかという点が具体的に盛り込まれていると、より分かりやすい理由になると思います。次回以降の課題として、今回はこちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布

理科調査部長入室

<会長>

それでは、理科部会の報告をお願いします。

<理科調査部長>

理科部会の調査部会では、「東京書籍」、「大日本図書」、「学校図書」、「教育出版」、「啓林館」「信州教育出版」の6社について詳細に比較、検討をいたしました。

各出版社とも、学習指導要領の教科の目標を達成するための配慮が見られました。それぞれに特色があり、一長一短はありましたが、総合的に判断した結果を調査報告書の項目・観点に沿ってご説明いたします。

まず、1つ目の観点は観察、実験などを行い、問題解決の力を養うための配慮についてです。

各社、問題解決の過程や学年を通して育成を目指す問題解決の力を示し、見通しをもって取り組むことができるよう配慮されていました。各社とも思考を促したり、対話的な活動を取りいれたりするなどの記載の工夫がみられました。また、巻末に、ノートのとまとめ方や話し合いの仕方などの掲載もみられました。

大日本図書は、巻頭の「理科の学び方」に、問題解決の過程や学年を通して育成を目指す問題解決の力について示し、どの単元の学習においても見通しをもって主体的に取り組むことができるよう配慮されています。また、学年を通して育成を目指す問題解決の力を身につけるために、写真やイラストなどを掲載したり、キャラクターによる対話やセリフを全文掲載せずに「・・・」という三点リーダーで表現したりするなど、発達段階に応じて思考を促す工夫が見られました。さらに、問題解決の過程を「見つけよう」「調べよう」「伝えよう」と、大きく3つのまとまりに分け、そのまとまり毎に色分け表示されるなど、どの単元でも問題解決の過程がわかりやすい構成となっております。そして、学年を通して育成を目指す問題解決の力について、学習過程のアイコンに星のマークを付けることで身に付けたい問題解決の力を意識できるものとなっている点が特徴的であり、大変優れていると思われまます。

続いて2つ目の内容の程度及び取扱いについての観点「理科における見方・考え方を働かせるための工夫」についてです。

「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」は、巻頭に各学年で身に付けたい理科の見方・考え方を示しています。

各社とも、理科における見方・考え方を働かせた児童の発言例を示し、意識的に思考・表現ができるように工夫されていました。特に、「大日本図書」「東京書籍」の単元の導入では、児童が興味・関心をもち、問いが生まれるような事象を写真で示し、理科の見方を制限せず、問題を見いだす力を育成できるように工夫されています。

特に「大日本図書」では、理科の考え方を踏まえた観察、実験のタイトルをつけることで、考え方を意識して問題解決学習ができるように工夫されています。さらに、「大日本図書」と「東京書籍」では、児童の思考に即した「問題」が設定されています。「啓林館」は、理科の見方・考え方を働かせる視点としてはよいのですが、例えば4年生の電池の働きで「～どのような関係

があるだろうか」といった問いが多く、やや難しいとも感じます。「大日本図書」は、「問題」に正対した結論「わかったこと」とそれに対する説明をはっきり区別して示しており、児童の問題解決の力を育みつつ、基礎的・基本的な知識の定着が図れるよう配慮されています。

3つ目の教材の配列には、どのような特色があるかについてです。

各社とも季節に適した学習配列になっていました。「大日本図書」「教育出版」は、実験器具や理科室の使用が重ならないよう調整がされており、各学年の単元の配列が配慮されています。また、「学校図書」「東京書籍」「大日本図書」は6学年の冒頭に生活と環境との関連を学ぶ小単元が配置されていました。

さらに、すべての教科書で余裕をもって指導できる分量の指導計画が作成されておりました。各社とも2学期制・3学期制のどちらにも対応できるよう指導計画が作成されています。

第4の観点、「標記・表現等について、どのような工夫が見られるか」についてです。各社とも、さまざまな記号やマークを付けて、視覚的にとらえやすく工夫されています。特に「大日本図書」では、「理科と仕事マーク」「伝統」「英語」「防災」「科学技術」「環境」などのマークを設け、理科とキャリア教育、伝統文化、国際理解、防災、持続可能な社会の関連を意識できるようになっていました。

また、学年の最初の単元には、「問題を見つけるコツ」「予想するコツ」「計画するコツ」「考察するコツ」など、学習の流れに沿ったコツが記載されており、児童への手立てとなっていました。

さらに、観察・実験器具の扱い方については、学習個所にQRコードが記載されており、使い方を動画で確認することができます。また巻末に「使い方を覚えよう」として、学年で使用する観察実験器具の使い方がまとめられているので、簡単に確認できるようになっていました。その他にもウェブコンテンツを豊富に設けており、タブレットを使って、関連する動画を見ることができるようになっています。3年生から6年生までの学習内容を見ることができ、学年相互の関連を図り、系統的、発展的な学びにつなげることができるようになっていました。

各社、印刷・製本において、再生紙や植物油インキを使用し、児童のアレルギーや環境に配慮すると共に、あじろ綴じにより紙面を開きやすく、児童が扱いやすいよう配慮されていました。

「大日本図書」については、A4サイズで紙質は上質であり、写真も文字も大きく、表紙に抗菌・抗ウイルス処理をして、感染症の予防対策をしています。

以上のような検討結果から、当検討部会では「大日本図書」の「たのしい理科」の評価が高かったことをご報告します。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

教科書が大きくなったことを評価されたと思うのですが、机の上で開くとタブレットもあり、スペースが狭くて大変だと思います。自分は小さくてまとまっている方が、机の上で扱いやすい

のかなと思ったのですがどうですか。

<理科調査部長>

その点については、部会でも話題になりました。「大日本図書」は今よりも大きくなり、開いた感じも見やすくもなっている点も良かったのですが、大きさ重さについて話題となりました。しかし、今のところ他の教科書と揃えたときに理科だけが下がっていて子供たちが扱いにくい様子が見られます。また、机の上に広げた大きさについても、他教科と変わらないので、理科だけがということはないと思われま

<委員>

理科は観察・実験が大切だと思います。教科書の中の資料的な価値としても、やはり「大日本図書」の方が良いということですか。

<理科調査部長>

もちろん各社とも工夫はされておりますが、「大日本図書」は資料が見やすく、単元に適した資料や写真等が使われており比較がしやすくなっています。

<会長>

その他、ご意見などあればお願いします。なければ質疑を終了いたします。
それでは、調査活動ありがとうございました。

理科調査部長退室

<会長>

それでは、ただいまよりご審議いたします。委員の中で、意見のある方はいらっしゃいますか。
調査部会では「大日本図書」という報告がございました。
理科については、「大日本図書」の教科書を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

ご意見などありましたら、お願いします。

こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布

生活調査部長入室

<会長>

生活部会の調査報告をお願いします。

<生活調査部長>

生活科調査部会での調査内容について報告いたします。

生活科は、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版」「光村図書」「啓林館」の7社の教科書について調査いたしました。

生活科の学習において、大切にすべきことが学習指導要領には次の3点が示されています。1つ目は、具体的な活動や体験を通すこと。2つ目は、身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと。見方・考え方とは「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくか」ということです。3つ目は、1つ目と2つ目を通して、自立し生活を豊かにするという点です。

ここで新たに加わったことは、生活上の必要な習慣や技能を身に付けるという点です。

この3つの点につきましては、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」「教育出版」「信州教育出版」「光村図書」「啓林館」の7社ともに調査報告書にまとめましたように、趣旨を十分に踏まえた内容となっております。

主体的・対話的で深い学びを行うためのポイントは4つ示されている1つ目は、試行錯誤や繰り返す活動を設定すること。2つ目は、伝え合い交流する場を工夫すること。3つ目は、振り返り表現する機会を設けること。4つ目は、児童の多様性を生かし、学びをより豊かにすること。

この4つが、主体的・対話的で深い学びを行うための4つのポイントとなっております。

このことにつきましても、7社ともに調査報告書にまとめましたように、趣旨を十分に踏まえた内容となっております。

最後に、各出版会社の全体的な特徴について説明いたします。

「東京書籍」です。『身近な人々、社会及び自然をどのように捉え、どのように考え、表現し

気付きの質を高めていくか』という生活科における見方・考え方が発達段階を考慮し分かりやすく取り扱われています。情報量が絞られており、低学年の児童の発達に考慮して取り扱われています。

「大日本図書」です。『きもちマーク』を設定し、自己の感情を直接的に表現することで、言葉以外の方法でも自己評価できるように配慮されている点がポイントとなっております。

「学校図書」です。1活動1見開き単位で構成されており、次の活動へつなげていく場面を示すことで活動の連続性を重視している点がポイントとなっております。

「教育出版」です。『わくわくすいっち』において動機付けを行いやらされている体験活動に陥らないように配慮されています。『はっけんロード』で試行錯誤を促している点がポイントとなっております。

「信州教育出版」です。地域や地域の人とのつながりを大切にした活動と体験が一体化した表現ができるように配慮されています。

「光村図書」です。学習の流れが分かりやすい紙面構成、見開きで課題・活動内容・振り返りを繰り返す構成となっております。

「啓林館」です。導入『わくわく』主たる活動『いきいき』、振り返り『ぐんぐん』の3段階で構成され『めぐり言葉』には児童の次の活動に向けての思いや願いが例示され、単元を通して学びが連続的・発展的に深まるように工夫されていると調査いたしました。

以上になります。

<会長>

ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

調査部会では、この7社でどこの教科書が子供達に有効的な教科書だと考えましたか。

<生活調査部長>

どこも工夫されていると感じましたが、1番最初の「東京書籍」が発達段階において、情報量が絞られているという点で最初生活科に入っていく場面においてもしっかり書かれているというところで「東京書籍」が良いのではないかという話はありました。

<委員>

低学年の子供達が使うと思うのですが、QRコードの量に差があるなと感じました。「東京書籍」は少なめだと思うのですが。

<生活調査部長>

下巻になると増えてきます。他の教科書は量が多すぎて、1・2年生の子供には扱えないので

はと感じています。情報量が絞られている「東京書籍」が一番扱いやすいのではないかと考えております。

<委員>

情報量というのは、QRコードがということですか。

<生活調査部長>

QRコード以外にも、見方・考え方の視点など、学習指導要領に書かれている内容が多く盛り込まれて良く作られているのですが、ただ1・2年生の発達段階を考えたときに、まだ使いこなせないのではないかと調査いたしました。

<委員>

生活科の学びのポイントとして体験や伝え合いなどを説明していただきましたが、もう一つの視点として、就学前の遊びや学びなど、幼保との関連はどうですか。

<生活調査部長>

最初の見開きのところでしっかり作られていると思います。

<委員>

生活科で大事な、四季を学びの中で得られるような内容に差があると感じたのですがいかがですか。

<生活調査部長>

それぞれに四季を感じる、春、夏、秋、冬で活動する内容になっていると思われます。

<委員>

昔は雨の日の過ごし方ということで、雨の中で遊んだ記憶があるんですが、今はあまりないんですかね。

<生活調査部長>

1社どこかであったと思います。

<会長>

その他にありますか。なければ質疑を終了いたします。

それでは、調査活動ありがとうございました。

生活調査部長退室

<会長>

それでは、ただいまより審議いたします。調査部会では「東京書籍」という報告がありました。ご意見などあればお願いします。

なければ、報告のとおり決定でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

理由書についてご意見ございますか。

なければ、こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

午後につきましては、予定通り午後1時より開催でよろしいでしょうか。午前中は以上になります。ありがとうございました。

調査報告書配布

音楽調査部長入室

<会長>

午後の部を再開いたします。音楽部会の調査報告をお願いします。

<音楽調査部長>

音楽科調査部会での調査内容についてご報告させていただきます。

音楽科の教科書は、「教育芸術社」と「教育出版社」の2社でございます。

お手元の調査報告書のとおり、「感性を働かせ音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだせたりするための配慮」をはじめとする、4つの観点について調査いたしました。それぞれの教科書の特色について主なものを、実際に教科書をご覧いただきながら、ご報告させていただきます。

はじめに、「教育芸術社」の教科書について、ご報告させていただきます。

まず、1つ目の観点であります。

3年生の62ページ、4年生の26ページをご覧ください。3年生の「神田囃子」では、締太鼓のリズムを「テン テテ ツクツク」という口唱歌で歌ったり、4年生の「こきりこ」では「こきりこ」の歌保存会の方の、声の出し方をまねしながら歌ったりする活動など、楽譜を読むことが苦手な児童でも取り組みやすい配慮として、体験型の鑑賞学習が工夫されています。また、右上にある二次元コードを読み取ることで、鑑賞教材の他、参考となる音源、音楽づくりの学習シート、楽器の紹介動画等、題材のねらいに沿った内容が提供され、個別最適な学びへの配慮にもなっております。

次に、2つめ目の観点についてです。まず、4年生の40ページをご覧ください。4人の子供やねずみのキャラクターが吹き出しでつぶやくイラストが掲載されています。この吹き出しの「つぶやき」は、考えるためのヒントや創意工夫のポイントなどを示しておりますので、児童が主体的・協働的な学びをスムーズに進められるようになっております。また、この子供とキャラクターは、全学年の各教材によって、人数が増えたり、表情やしぐさを変えたりしていますので、音楽をする喜びや楽しさを誌面から感じ取って学んでいけるような工夫が見られます。

次に、1年生の2・3ページの目次をご覧ください。下ほどに、教科書に出てくる「しるし」として「考える」「見つける」「歌う・演奏する・つくる」のアイコンマークが掲載されております。このアイコンマークは、それぞれの教材の学習内容に沿ったものが表示されています。例えば7ページの教材では「みつける」、8ページでは「うたう」、10ページでは「考える」「みつける」のアイコンマークが掲載されています。そして、それぞれのアイコン表示のところに、具体的で分かりやすい活動文が書かれていますので、児童が「何をどのように学ぶのか」ということを明確にして、主体的・協働的に学びを進めていけるような工夫が見られます。

次に、3つ目の観点についてです。

3年生の60ページをご覧ください。ここから65ページまでが、一つの題材となっております。まず、62ページまでが体験型の鑑賞、63ページでは地域との関わりと関連づけた調べ学習、64ページでは、これまでの学習を生かして自分たちのおはやしをつくる「音楽づくり」が配列されています。このように、各学年において発達段階に応じた歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくりの教材がバランスよく配列され、6年間の系統的な題材構成となっております。また、各学年の年間授業時数に応じた、無理のない題材数の設定にも工夫が見られます。

最後に、4つ目の観点についてです。

3年生の40・41ページをご覧ください。縦書き歌詞が見やすくなるように、写真の色調や構図に工夫が見られます。また、歌詞や文章を入れるときには、無地の部分に配置したり、背景を

白くしたりして、読みやすさを確保しています。また、タイトルや文章、楽譜中の歌詞はユニバーサルフォントを使用し、全ての子供たちにとって見やすく集中して学習できるような工夫が見られます。

続きまして、「教育出版」について報告させていただきます。

まず、1つ目の観点についてです。

2年生・3年生、それぞれ6・7ページをご覧ください。手拍子で遊んだり、手拍子や足踏みをしながら歌ったりするなど、身体表現を取り入れながら音楽のよさを感じ取る学習の工夫が見られます。

また、1年生32ページ、3年生の18ページをご覧ください。1年生では鍵盤ハーモニカ、3年生ではリコーダーの学習が導入学年となりますので、どちらも全8ページ構成にして、楽器との出会いを大切にするという工夫が見られます。そして、ページに掲載されている二次元コード「まなびリンク」を読み込むことで、楽器の奏法や音色の視聴など、個別最適な学びを動画でサポートする配慮も見られます。

次に、2つ目の観点についてです。

5年生の26・27ページの下の部分をご覧ください。方位磁石に似たマークの「まなびナビ」マークとともに学び方の例示が文章で詳しく示されています。学び方をナビゲートするこの文章を基に、児童が協働しながら主体的に音楽活動に取り組めるような工夫が見られます。

また、1年生の59ページをご覧ください。このような「音楽づくり」の教材では、「れい」として、つくり方の例示を複数紹介しており、主体的・対話的な学びを引き出すための工夫が見られます。

次に、3つ目の観点についてです。

5年生の目次をご覧ください。基礎・基本を身につける主要部分の題材数は、全学年とも共通して8つです。それ以外に「目指せ楽器名人」や「変奏曲を楽しもう」「日本の楽器を訪ねて」「音楽ランド」というコーナーで、選択オプションとなる発展的な教材が配列されています。ここから、主要となる題材と関連づけた教材を、教師が組み合わせるなどして、児童の実態に応じた発展的な題材構成を工夫することが可能となります。

最後に、4つ目の観点についてです。

5年生の10・11ページをご覧ください。折込みを使ったワイドで美しい写真にすることで、歌詞の内容を忠実に表現して児童に伝えるという工夫が見られます。

また、2年生の36ページ、44ページをご覧ください。コントラストがはっきりとした配色使用で、児童の興味・関心を高める工夫が見られます。

なお、タイトルや文章はユニバーサルフォントを使用するなど、特別支援教育の視点に立った配慮が見られます。

以上、2社の教科書を総合的に見ますと、「教育芸術社」の方は、基礎・基本をていねいに取り扱っていることから、すべての児童にとって分かりやすく学べる内容であり、音楽を専門としない教師にとっても、着実に学びを定着させることができる内容となっております。

「教育出版社」の方は、選択オプションや発展的な内容が多く、音楽的な能力の高い児童にとっては興味深く取り組める内容であり、音楽専科の教師であれば、教材を組み合わせることで題材構成を工夫するなど、専門性を発揮できる内容となっております。

以上のことから、調査部会としては、「教育芸術社」の教科書が、地域の児童の実態にあったものであると考えます。

報告は以上でございます。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問等がございましたらお願いいたします。

<委員>

共通教材は同じ楽曲をやりますが、小学校の段階で子供達は共通教材以外の楽曲に出会うことも大切だと思います。それも踏まえて2社で比べたとき、やはり「教育芸術社」の方が楽曲の選定も良いと捉えてよろしいですか。

<音楽調査部長>

たくさんの楽曲という点では、「教育出版」の方が多く掲載されています。ですが、音楽の回数から考えると、ほとんどが手をつけられずに終わっているというのが現実だと思います。「教育芸術社」の方にも、新曲はたくさん載せられています。「教育芸術社」の扱いとしましては、「スタート時のオリエンテーションのときに、クラスの友達と仲良くなれるような教材をみんなで斉唱し、学期をスタートする」というような扱いでの選曲というものがあります。

<会長>

その他はございますか。なければ、質疑を終了いたします。

それでは、調査活動ありがとうございました。

音楽調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。「教育芸術社」ということで報告がありましたが、意見などあればお願いします。

<委員>

6年生の教科書の表紙を見てわかるように、「教育芸術社」の方は、女の子、男の子、顔の黒い人、いわゆるユニバーサル、インクルーシブ、ダイバー的なこともあり、音楽をとおして世界は繋がっていると表している部分は大きなと感じます。ぜひ子供達にはこのような教科書を使っ

ていただきたいなと思います。「教育出版」には男女はあるのですが、そういった部分は見られないので、「教育芸術社」にはそういう想いが詰まっているのかなと感じました。

<委員>

全体の話なのですが、教科によって出版社数が違うのですが、これは合格している会社が教科によってそれぞれ違うということですか。

<会長>

そういうことです。今回は生活が一番多くて7社、今の音楽は少なくとも2社になります。

<会長>

他にございますか。

それでは、「教育芸術社」の教科書を選定するという事によろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

ご意見などありましたら、お願いします。

<委員>

先ほど出た、表紙の件を理由書にいれてもいいのではないのでしょうか。

<会長>

事務局に聞きますが、理由書に今回出た話を加えることは可能ですか。

<事務局>

可能です。

<会長>

部長と相談して、先ほどの内容を一文付け加えます。

その他、理由書で何かございますか。

<委員>

異議なし

<会長>

音楽についての、理由書はこちらで決定いたします。

調査報告書配布

図工調査部長入室

<会長>

図画工作部会の調査報告をお願いします。

<図工調査部長>

図画工作調査部会では、「開隆堂」及び「日本文教出版」の2社を調査しました。

まず、「学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」です。両社とも生活や社会に関わる資質・能力を育成するための配慮が十分になされています。特に、「日文」では、身近なSDGsの活動や持続可能な社会の創造へのつながりが、学習の発展や他教科とのつながりからわかる構成になっています。

また、高学年の鑑賞活動では、鑑賞素材も日本の伝統的な技と美や世界の美術作品を取り扱うなど幅広く充実したものとなっています。また、幼児教育や中学校など校種間の接続や、地域や美術館との連携にも配慮しています。特に、「日文」では、小学校で押さえるべきメジャーな作家や作品を取り上げてあるところが特色といえます。

今後の展開について、『よりよい未来を想像する力を育みたい』という「日文」のコンセプトのとおり、これまでと違った図画工作科の未来を感じました。

次に、「内容の程度及び取扱いについて」です。主体的・対話的で深い学びの実現のための工夫という観点で審査いたしました。両社とも、言語活動やコミュニケーションを取り入れ、協働で行う活動や他者につながる活動を通して、より深い学びができるように工夫されています。そして、多様な題材により、学校や児童の実態に合った指導計画を作成しやすく、指導と評価の一体化の実現を助ける工夫が見られます。中でも、「日文」の方が、指導者の教材研究や準備を助けるツールが充実しているといえます。発想や構想、表現のヒントになるシンキングツールや楽しみながら鑑賞できるアートカードアプリなど、授業で使えるQRコンテンツが充実しているので、児童の好奇心や探求心を刺激し、より深い学びが可能になることだと思っております。

そして、「内容の配列・分量」で両社を比較すると、特に大きな違いは見られません。内容で見れば、「日文」は「開隆堂」よりも、ややアカデミックな色合いが強いです。「日文」は、

タブレット端末で読み込むQRコンテンツに、アプリ・動画・画像などのラインナップが1,000点以上用意されており、豊富さで群を抜いています。学校だけでなく家庭学習での活用が期待できることから、主体的な学びにつなげていける内容となっています。

最後に、表記・体裁についてですが、2社ともよく工夫されています。

題材が見開きで完結しているのも、学習の見通しが立てやすいこと、共生社会を意識した、見やすく間違えにくいユニバーサルフォントを採用していることは共通しています。視覚に訴えるのが「開隆堂」であり、「日文」は読んで学びを深めることのできる仕様となっています。

図画工作調査部会では、これまでの実績と『よりよい未来を想像する力を育みたい』という日文のコンセプトを評価し、「日本文教出版」が適切と評価いたしました。

以上で報告を終わります。よろしくお願いいたします。

<会長>

ありがとうございました。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

図画工作では、いろんな造形活動があると思うのですが、教科書を見ると絵画表現の内容が少なくなっているなと感じます。造形活動には工作など、いろいろあると思うのですが、時代の流れなのでしょう。

<図工調査部長>

そのとおりだと思います。今までは描写力が求められていましたが、それよりも発想力の豊かさの方が重点を置かれています。楽しくいろんな発想を引き出す、上手い下手ではなくて発想の豊かさで評価する、そういう時代になってきているかなと思います。日本は昔から、日本人は手先が器用なので、描写力が重視される場所がありましたが、世界標準ですと、見方が面白さや色合いなど、そういうところで世界標準に近づいていると感じています。

<委員>

昔は、写實的に表現できるかというのが多かったような気がしますが、教科書をみて今は変わってきているなと感じました。

<委員>

学校の学びをいかに家庭での学びにつなげるかというところで、お話の中に動画・画像の数が1,000点以上あるということでしたが、これで子供達の意欲が引き立つものなのかどうか、実際見られてどうですか。

<図工調査部長>

いろいろなものを見ると面白いやってみたいという気持ちになるのですが、影響を受けすぎてしまい、個性が阻害されてしまう恐れがあります。ただ、それを見せるタイミングを上手く指導者が調整することによって、子供の想像力に広がりをもたせるのは可能だと思います。

<委員>

美術を見る人が増えてくれると嬉しいなと思っています。教科書をみると、美術館の紹介や昔の良いものなどを紹介されていると思うのですが、どちらの教科書の方が見る学ぶにつながると思いますか。

<図工調査部長>

私は美術館にもいたことがありまして、そういう立場から申し上げますと、「日文」の方がそういう連携がとりやすい教科書になっていると思います。

<会長>

その他はございますか。なければ、質疑を終了いたします。

それでは、調査部長さんには、調査活動大変ありがとうございました。

図工調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。委員の中で意見などあればお願いします。

<委員>

一般的な学校へのコンクールの応募関係は、みんな絵画です。でも、今の内容は絵画がどんどん少なくなってきています。だから、企画側の人も、変わってきているということを理解してもらいたいと思っています。余談ですが。

<会長>

その他いかがでしょうか。

なければ、報告のとおり「日本文教出版」を採択するということによろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。
こちらでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

図工についての、理由書はこちらで決定いたします。

調査報告書配布

家庭調査部長入室

<会長>

それでは、家庭の調査報告をお願いします。

<家庭調査部長>

家庭の2社の教科書について報告をさせていただきます。

まず、「わたしたちの家庭科」開隆堂の主な特色について、4項目においてご報告いたします。

始めに、1の項目・学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についての特色です。

各題材の最初には、題材を象徴する写真やイラストを掲載し、子どもたちの興味を引き、自分の生活をふり返って課題を見つけられるような工夫がされています。また、すべての題材において、最初に課題に「気づく・見つける」、次に課題を解決するための知識や技能を「わかる・できる」、最後に学びを生活に「生かす・深める」の3ステップで構成し、見通しをもって課題解決型学習が進められるように配慮されています。

さらに、学習内容にSDGs、防災、プログラミング、キャリアなど多様な視点を関連させて取り入れた内容となっています。

次に2の項目・内容の程度及び取り扱いについての特色です。

基礎・基本を着実に身に付けるスモールステップの学び、実習、製作の難易度設定等の工夫が行われています。

また、生活にかかわる見方・考え方を、四つ葉のクローバーで表現し、学習を進める

なかで、子どもたちが見方・考え方をはたらかせていくことができよう工夫されています。

教科書右上には、豊富で精選されたデジタルコンテンツを掲載しており、実習や製作題材には、動画コンテンツ、記入カード、PDF 資料、さわって動かす「動作コンテンツ」などを活用しながら学習を進めることができ、意欲を喚起する工夫がされています。

続いて3の内容の配列・分量についての特色です。

題材が細かく区切られている、5学年で11題材、6学年では9題材となっておりますので組み合わせがしやすく、地域や学校の実態に応じて指導できるようになっています。また、2学期制にも対応できるようになっています。

学年ごとに見ると、5年生では基礎的内容を中心に、6年生では生活に生かす工夫をする内容を中心とするなど、平易なものから難しいものへと系統的に学習ができるように、2年間の系統性に配慮して配列されています。また、中学校への接続ページを配置しているほか、キャリアや持続可能な社会をテーマに取り上げ、将来につながる内容を取り上げています。

最後に4の項目、表記・体裁についての特色です。

A B判からA判に大きくなり、写真やイラストが大きくなり、よりダイナミックに、わかりやすい紙面の工夫をしています。また、ユニバーサルデザインフォントや、見やすい色使い、単語が行をまたがない読みやすい文章、実習手順の横流れの掲示など、特別支援教育の観点にも配慮が見られます。

一人一台端末やインターネットを使用して情報収集したり学んだことを発表したりして活用する場面が多数掲載されており、教育のICT化への取り組みや一人一台端末の活用についての取り組みが十分になされている。

続きまして、「新編 新しい家庭」東京書籍の主な特色について、4項目においてご報告いたします。

始めに、1の項目・学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択についての特色です。

各題材の最初に、「家庭科の窓」を設置し、見方・考え方の視点を意識して、学習が進められるようにし、その視点をはたらかせて、各所に収載している活動を行うことで、深い学びを実現できるようにしています。

実践的・体験的な活動を促すように、座学が多くなりがちなところにも活動を設定し、様々な活動を通して児童の思考力・判断力・表現力が育成されるよう配慮しています。

次に2の項目・内容の程度及び取り扱いについての特色です。

知識・技能の定着のため、学習の目標と評価を重視し、すべての小題材の始めに学習の「めあて」、終わりにそれに呼応した「ふり返ろう」を設けてこまめに学習をふり返り、学習内容が定着するようにしています。

デジタルコンテンツの活用が有効な内容に「D マーク」を示し、QR コンテンツを用意

し、授業で活用できるように工夫しています。

生活の課題と実践を「生活を変えるチャンス!」として設定し、学習内容を生活に結びつけ、日常生活の問題を見だし、解決できるようにしています。

続いて3の内容の配列・分量についての特色です。

基礎・基本から応用へと児童の発達段階に応じて系統的に配列しています。5年生で学んだ技能を6年生で再度使うことで、より確実な定着を図るようにしています。

大題材の配列を組み替えることで、地域や学校の実態に応じた指導ができるようにしています。また、活動例や実習例を豊富に提示することで、地域や学校の実態に応じて、選択して指導できるように配慮しています。

最後に4の項目表記・体裁についての特色です。

A4判を用い、一つの実習を見開きで概観することができるようなレイアウトになっています。特別支援への配慮として、全ての大題材の導入に、ステップ1～3のタイトルを並べて示し、学習の見通しが立てやすいよう工夫しています。また、ユニバーサルデザインの観点から、配色、デザイン、書体などの配慮をしています。

また、巻頭に衛生・安全を特集した「いつも確かめよう」があり、本文中には「安全マーク」を付して、注意喚起をしています。

以上2社の特徴についてご説明いたしました。

4項目について比較したところ、調査部会では「開隆堂」の教科書が適切ではないかと考えております。以上となります。

<会長>

では質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

QRコードで縫い方やミシンの使い方など、実際に映像で見た方が子供達が分かりやすいと思うのですが、十分にそういった機能は入っていますか。

<家庭調査部会長>

入っております。

<委員>

調理実習などは、いろいろな材料を集めたり、調理の順番決めたりとプログラム学習みたいなものだと思います。今教科書見ても、どちらも分かりやすいと思うのですが、そういったプログラミングの発想というのは家庭科にもありますか。

<家庭調査部会長>

やはり調理は、洗ったり、切ったりというものを組み立てていくような活動でもあるので、教科書の中にもありますし、QRコードの中でも動かせるようなものがあります。

<会長>

その他はございますか。なければ、質疑を終了いたします。

それでは、調査活動ありがとうございました。

家庭調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。調査部会では「開隆堂」ということで報告がありました。ご意見はございますか。

<委員>

先ほど質問したことがとても大切なことだと思っておりますが、「開隆堂」の教科書はきちんと押さえられていると思います。

<会長>

その他はございますか。

それでは、報告の通り「開隆堂」の教科書を採択するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見のある方いらっしゃいますか。ではよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

<会長>

先ほどの音楽の採択理由書を変更したものができましたのでお配りします。

採択理由書（案）配布（音楽）

<会長>

先ほどの音楽の表紙にユニバーサルデザイン、ダイバーシティに配慮した工夫が見られたということで、「また、様々な国籍の子どものイラストが描かれており、ダイバーシティの実現に向けた工夫も見られる」この一文を追加する形でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、音楽の理由書はこちらで決定いたします。

調査報告書配布 保健調査部長入室

<会長>

保健部会の調査報告をお願いします。

<保健調査部長>

保健部会での調査内容について報告させていただきます。

保健部会では、「東京書籍」「大日本図書」「大修館書店」「文教社」「光文書院」「学研」の6つの教科用図書について調査しました。その結果をまとめたものがお手元の資料になります。

その資料をもとに、各教科書の特徴について簡単にご報告させていただきます。

最初に「東京書籍」。この教科書は、各単元の最初に学習の目標が記載され、小單元ごとに学習の進め方が明示されており、ステップ1「気づく・見つける」、ステップ2「調べる・解決する」、ステップ3「深める・伝える」、ステップ4「まとめる・生かす」の4構成になっています。また、文字や資料が大きく示されていてとても見やすく、教科書とワークシートが一体化しているのでとても使いやすくなっています。

次に「大日本図書」。この教科書は、単元の始めに「学習ゲーム」を掲載し、児童がゲームを行うことで課題に気付いたり、見付けたりすることができ、自分の課題をもって取り組めるように

工夫されています。そして、1 単位時間が、見つける、考えてやってみる、まとめる、広める・深めるの 4 構成になっています。

続いて「大修館書店」。この教科書は、各小単元が、ステップ 1「課題をつかもう」、ステップ 2「学習課題解決のための活動」、ステップ 3「学習をまとめる」の 3 構成になっています。文字が大きく、写真がたくさん使われていて分かりやすく伝えています。単元の最後には、「ふり返りのページ」があり、今後の自分の生活に活かしていけるようになっています。

続いて「文教社」。この教科書は、小単元の最初に学習のめあてと本時の Menu が示され、学習の進め方が明示されています。また、単元の最後に「わたしの〇〇宣言」のページを設けることで、自分の課題を明らかにして今後の生活に活かせるようになっています。

続いて「光文書院」。この教科書は、巻頭に著名人からの児童へのメッセージを掲載し、保健を学ぶことの大切さを伝えています。小単元ごとに学習内容をさらに広げたり、深めたりすることができるような資料が掲載されています。

最後に「学研」。この教科書は、小単元の最初に学習の進め方や学習課題が明示されています。文字や資料が大きくとても見やすくなっています。教科書とワークシートが一体化していて使いやすくなっています。さらに、小単元の最後に「ほけんのはこ」のページを設け、学習を広めたり深めたりできるようになっています。

これらの調査結果をもとに、採択理由書のとおり提案いたします。

以上で報告を終了させていただきます。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

調査部会では、この 6 社の中でどの教科書が一番良かったと思いますか。

<保健調査部会長>

「東京書籍」を提案させていただきます。

<委員>

それはなぜですか。

<保健調査部会長>

6 社とも学習の課題・めあてがあって、学習の流れは共通している部分があるのですか、「東京書籍」の教科書は、教科書の中にワークシートが入っています。「学研」にも先ほど説明したとおり入っているのですが、ワークシートが一体化になっている部分が使いやすいのと、資料・文字が大きく示されており、特に資料が精選されています。ページ数についても、子供達が学習する

内容に大きな負担にならないという部分で「東京書籍」を選びました。

<会長>

その他いかがでしょうか。なければ、質疑を終了いたします。
調査部長さんには、調査研究ありがとうございました。

保健調査部長退室

<会長>

それでは、審議いたします。ご意見をお願いいたします。「東京書籍」という報告がありました。

<委員>

音楽の流れからしても「東書」の表紙は、ユニバーシティに配慮されています。私も「東京書籍」が良いと思います。

<委員>

私も同意見です。

<委員>

マークシートについては、ほとんどの会社で採用しているのかなと思います。

<会長>

「東書」と「学研」という話がありましたが、どの会社もあるんですね。
他にございますか。なければ、「東京書籍」で決定いたします。よろしいですか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<委員>

音楽と同じような一文を入れてもいいかなと思うのですが。

<委員>

最後の「多様性」という部分が含まれているかなと思います。

<会長>

「多様性」ということに含まれているということによろしいでしょうか。

では、この理由書によろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布

英語調査部長入室

<会長>

英語部会の調査報告をお願いします。

<英語調査部長>

今回の教科書調査分析に当たって、6社ございました。

定められている調査項目としては、「学習指導要領の目標を達成するために取り扱う内容の選択について」「内容の程度及び取り扱いについて」「内容の配列・分量」「表記・体裁」となります。それらを抜粋してご説明いたします。

まず外観での大きな違いは、教科書のサイズです。A4サイズが、New Horizon（東京書籍）、Sunshine（開隆堂）、CROWN（三省堂）、Blue Sky（啓林館）の4社、縦B5、横A4サイズが、ONE WORLD（教育出版）、Here We Go!（光村）でした。

その中から、「2・東京書籍のNew Horizon」と「9・開隆堂のSunshine」についてご説明いたします。

教科書を開いた印象は、New Horizonは、日本語、英語を問わず書くスペースが多く、広く取っており、これは、課題に沿った表現を聞くことをベースに、定型文の入れ替えだけではなく、自己表現を意識し、思考を深めながら、表現・伝えるプロセスが考えられます。自身の学びの過程、足跡が感じられる印象です。

また、小学校3、4年生の外国語活動における、「聞くこと、話すこと」から「書くこと」も踏まえた学習内容において、最初から「難しい。教科書のすべてを理解できないかもしれない。」と

思わせたくはありません。そのような点からも、日本語で整理する欄が多いことは学習者への意欲や個に応じた学びにつながるかも知れません。あわせて、ページ数が他社と比較し押さえられています。5年生の教科書の例文では、単語の入れ替え部分は色を重ねて指示がしてあるため、自身のことを言うためには、どこを入れ替えたらいかががわかりやすくなっています。

Sunshine は、New Horizon と比較すると、基本文等の英語表現が多く記載されています。例文の数が多いです。音声と文字の一致を図り、基本文の定着を十分に図れるよう配慮している印象があります。どのようにコミュニケーション活動を行うのかが、視覚として理解できるよう効果的にイラストが活用されている。

6年生教科書の同じ単元内容で比較します。

2社の6年生の教科書最初の単元、「This is me」です。New Horizon では、This is me の解釈として自分をより深く知ってもらおう印象です。他社は、誕生日、好きなこと、出身地、できる事等が多い中、それが、「好きな物や宝物」という表現から分かります。他社より一歩踏み込んだ印象です。単元末のプレゼンテーションでは、具体物を使つての紹介のイラストがあるように、相手意識を考え、伝える楽しさ、聞く楽しさにもつながる印象です。

次に「My Best Memory」で比較をします。「New Horizon」は72ページ、「Sunshine」は70ページをご覧ください。

「指導のための材料」として、学習者に「学び、身に付ける内容」をどのように示すかということがあります。

New Horizon は、単元の冒頭部分の目標に単元の目標だけでなく、「自分、相手、世界」と3つのねらいが示され、学習評価基準の3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に対応した目標とリンクさせているところが特徴です。また、一単位時間ごとに、目標に対応する振り返りや自己評価をすることが出来るよう工夫されています。また、3つのユニットごとに、「Check your step」として、パフォーマンス評価に適した活動が設定されており、評価がしやすいという意見がありました。

Sunshine は、単元の冒頭に単元の目標を明示しています。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページにあり、見通しをもって単元の学習が進められるよう工夫しています。評価については、単元冒頭にマークで明確に示されており、単元で評価すべき領域と観点が一目で分かります。

いずれも最初は、聞き取る活動です。New Horizon では、聞いたことを、書き残す活動の欄があります。Sunshine では、英文の掲載がされています。

次のページ見開きでは、New Horizon は、日本語、英語で書く活動のスペースが多く取られています。一方、Sunshine では、まず、基本となる英文の定着を図っています。次のページでも、New Horizon に比べ、英文は多く記載されています。

同単元の中では、いずれもコミュニケーション活動がありますが、Sunshine では、「Let's Try」「Activity 1～3」の組み合わせで、スモールステップで一問一答から、伝える内容を加え表現内容を増やし、最後にプレゼンテーションを行う流れで段階を踏んでいます。基本文を一文ずつ

増やしてく流れです。基礎・基本の定着を確実にいき、そして、相手も一対一、多くの他者へと、伝える相手にも変化を持たせています。

New Horizon では、「Let's Try」として最初から、2文程度の返事を考えています。それを、補助するために、日本語で自分の考えを整理して記載してから進める流れを取っています。次は、3文程度の返事を返す設定です。最後は、まとめとして思い出を伝えることは同じですが、一対一での対話としています。それらを、My Picture Dictionary や QR コードの活用で自分で調べながら、伝えたいことを考えられるよう該当ページが教科書に記載されており、主体的な学びをうみだすことにつながるという意見もありました。また、会話を続けるための質問文・疑問文や会話を続ける表現が掲載されています。77 ページ「Your Goal」では、伝えあって終わりにするのではなく、相手意識や振り返りの欄を設けているところも特徴です。

学校教育指導方針「豊かな学びの展開」として、「問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びの推進」として「試行錯誤、アウトプット、振り返りの重視」とあります。

また、「外国語」の重点には、「言語活動を通じた、互いの考えや気持ちなどを伝え合う力の育成」とあることから、基本を大切にしつつ、定型文にとらわれず、より自分の「考えや気持ち」を伝えるための、思考を大切にしている点で合致する部分がある印象です。

Sunshine には、各 Lesson の始めに各活動や評価の観点、教科との関連が示されており、巻末に CanDo リストとして Lesson ごとの振り返りがあるが、New Horizon は、毎時間「Your Turn」等、活動の時間ごとに振り返り欄、コメント記入欄があるため、その都度、フィードバックすることができるとともに、次につながる振り返りとなります。また、別冊に Unit ごとの CanDo リストがあり、そこで Unit を通して身についた力を確認するようになっています。

単元の目標の書き方について異なります。New Horizon では、活動内容と誰に伝えるか、どのように伝えるか、世界に目を向ける流れになっています。

Sunshine は、達成目標として記載し、目指す Goal となっています。また、活動の流れが記載されています。

世界に目を向けた内容は同様にありますが、Sunshine では写真や動画で紹介し理解を深める工夫があります。New Horizon では、写真や動画を含め、グローバルな人材の育成という点でより深く触れています。「広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めると共に、国際協調の精神を養うことにも役立つこと」を強く押し出している印象があります。また、多様な国、人種、性別、車椅子にのった登場人物の写真や映像から多様性に配慮した部分もより感じられます。あわせて、アルファベット学習初期、特に5年生大文字、5年教科書の16、17ページでは、モデル文字を左利きの児童にも見やすいよう、右側にもモデル文字が配置されています。

他の4社についての言及ができませんが、説明しました2社に加えて、それぞれに優れた点があります。たとえば、

三省堂の「New Crown」では、単元の冒頭に、単元の目標を明示しています。また、一単位時間ごとの目標も単元冒頭の見開きページに記述があり、見通しをもって単元の学習を進めることが

できるよう工夫されている。また、英文の強く発音する部分は、色が付けてあり、発音にも意識をしています。

教育出版の「One World」では、1年間の学びを見通すことができる「学びのロードマップ」があり、中学年3、4年生からの、中学校への接続が円滑にできる工夫がありました。ただ、文字が詰まっている印象がありました。

光村の「Here WE GO!」では、到達目標をGoalとして、「～するために、～できる。」といった表現がされており、児童にとってやるべきことが明確になっているよさがあります。また、別冊の「Picture Dictionary」は、教科書に収納でき、取り外しも出来る工夫がされていました。また、登場人物の表情が豊かで、楽しく学べる印象です。

啓林館の「Blue Sky」では、教科書見開きに「コミュニケーションに大切なこと」として掲載されているページは児童の意識化を図るために有効です。また、QRコードが、活動ごとに付いているため、必要な部分だけを取り出し、確認することができ、取り扱いやすいと感じました。

各社とも、書く活動の基本を押さえようと、文字の書き方の指示や4線の工夫や配慮などがみられました。また、色覚の特性を踏まえた色使いなどの配慮が見られます。各社とも、学習者、評価者に対する使いやすさも考慮したスタイルになっていると感じます。

今後、使い勝手として、教科書への記入欄も各社によって、書かせる内容や量は異なるものの、左のページへの記入は、教科書を開いた状態で記入する際、机との間に空間ができ、ページが浮くため、書きづらさを感じます。また、書く際に、鉛筆が滑る感じの紙質と引っかかる感じの紙質があり、書く際には後者が書きやすい感覚でした。以上でございます。

<会長>

それでは質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

6社の話をさせていただいて、最初にでた2社を調査部会で選んでいただいたと思うのですが、その中でも特に「東京書籍」が良いということですか。

<英語調査部長>

選定委員の中では、「東京書籍」がこれからの自己表現の意識を深めていくという点で、今後の英語力の向上に向いているという意見が多く出ました。

<委員>

中学校も「New Horizon」ですか。

<英語調査部長>

現在は、中学校も「New Horizon」です。

<委員>

4年前に新しく英語の教科書が導入されましたが、4年経って教科書が変わってきた点がありますか。

<英語調査部長>

基本文だけにとられるという印象よりは、自己表現を打ち出してきている印象に変わってきているという話はありました。

<会長>

他にございますか。なければ質疑を終了いたします。
それでは、調査活動ありがとうございました。

英語調査部長退室

<会長>

それでは、審議をいたします。「東京書籍」という報告がありましたが、ご意見ある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布 道徳調査部長入室

<会長>

それでは、道徳の調査報告をお願いします。

<道徳調査部長>

道徳部会では、発行されている6つの出版会社の教科書について、詳細にわたって比較、検討をいたしました。その調査内容について、調査報告書をもとにご説明いたします。

第1項目としまして、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めるために、どのように配慮されているかというところにつきましましては、各出版会社とも、自分の経験や体験を振り返ったり、見つめたりすることで課題を見つけ、自分のこととして考える教材や多様な視点や立場から考える教材を通して、自分の生き方についての考えが深められるよう配慮されていました。また、いじめ、情報モラル、SNSトラブル、ネット依存、SDGsなどの現代的課題に目を向けた教材やキャリア教育の充実を図る教材も含まれ、多角的、多面的に考えを深められるよう配慮されております。

第2項目としまして、考え、議論する道徳の実現のために、どのような工夫が見られるかということにつきましましては、各出版会社とも、問題意識をもたせ、主体的に考えを引き出すことのできる教材や日常生活に関連するような教材を設定し、それらを役割演技を用いて体験させたり学習の手引きとして考えるためのヒントを示したりすることで、自分の考えを深め、議論に導くための工夫がされていました。また、課題解決を促す活動に向けて、関連動画や心情を表す心のメーターをQRコードで付随させたり、道徳ノートを用意したりするなど主体的に考え、道徳的実践意欲をそだてるための多様な配慮・工夫が見られました。

第3項目の題材の配列や分量にはどのような特色があるか、では、まず目次については、内容項目の4つの視点「自分自身に関すること」、「人との関わり」、「集団や社会との関わり」、「生命や自然、崇高なものとの関わり」が分かるようにマークをつけたり、番号を色別表記したりするなど、出版会社ごとの特色が見られました。内容項目一覧表についても、内容項目ごと、または、4つの視点で分けて色別表記したり、教材の系統性や内容項目を概観する記述を図に表したりするなど、出版会社ごとの特色が見られました。

分量につきましましては、各出版会社とも、各学年の内容項目がバランスよく配置され、「生命の尊さ」やいじめを重点化した内容項目については、ユニット化させ、複数の教材を配しているところに各社の特色が見られました。

第4項目としまして、用語や写真、使用上の便宜等についてはどのような工夫が見られるか、では、各出版会社とも、読みやすいように行間の幅を広げたり、文節で改行したり、当該学年以上で学習する漢字にはふりがなをつけたりするなどの工夫が見られました。また、挿絵や写真・図においては、ユニバーサルデザインの観点からも配色や大きさ等配慮するなどの視覚的に捉え

やすい工夫が多く見られました。さらには、LGBTQ や人権・差別にも配慮した紙面構成も多く工夫が見られました。

各出版会社とも、それぞれに工夫・改善を凝らしておりました。学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の配置等については、大きな違いはないと感じました。付随教材の有無、表記や体裁使用上の便宜等においては、出版会社ごとの特色がありました。調査した項目を包括して考えると各出版会社ともそれぞれ素晴らしい教科書として出来上がっており、優劣はつけがたいものになっていると感じました。

その中で、他の出版会社より「特別の教科 道徳」の学び方についてのオリエンテーションで分かりやすく説明されている点、デジタルコンテンツが豊富で充実しており、現在急速に需要がある急なオンライン学習や自主学習が主体的かつ意欲的に学習できるような構成となっている点、および教師の授業構成のしやすさ等から、地域学校現場の実態に応じ、児童の学びを広げるために総合的な視点でみると「東京書籍」のものが適しているのではないかという意見に至りました。以上です。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

道徳は前回から新しく教科書ができ、そのときは新しい教科書を取り入れるということで、だいぶ議論を行いました。そのときは、「日文」の道徳ノートが存在が大きかったです。私は、ノートは教師自身が構成すればいいと考えていましたが、当時の考え方は、道徳ノートがあった方が先生方は使いやすいとの意見でした。道徳ノートのあり方というのは、調査員のなかではどのような印象でしょうか。

<道徳調査部長>

「日文」の道徳ノートが大変良いということは、確認しておりました。調査員の方でも、ノートを使って授業を展開しているという話もありましたが、今回は「東京書籍」の動画のコンテンツの充実度などを精査していく中で、オンライン学習にも大変適しているのではないかというところで意見がまとまりました。

<委員>

他にございますか。なければ、質疑を終了いたします。

調査部長さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。

道徳調査部長退室

<会長>

それでは、審議に入ります。「東京書籍」の報告をしていただきましたが、ご意見を願います。

<委員>

私は保護者として参加しています。表紙の後ろに、保護者の皆様へという欄があります。先ほどの英語もそうだったのですが、保護者に対してのメッセージがあるのがいいと感じ、保護者も一緒に考えるきっかけになると思いました。

<委員>

前は相当ノートの有無について議論されました。最終的には、ノートがあった方が良くということで「日文」に決定しました。現在、現場で慣れてきていてノートがなくなると、どうなのかなという思いもあります。自分自信の考えは、ノートの構成は教師がやるべきだから、教科書についているノートにこだわる必要がないという個人的な見解もあります。ただ、現場ではどうなのかなと心配があります。

<会長>

先生が構想するということが大事なことなんですかね。ノートがあれば型通りにはできると思いますが、その先生の自由な展開や発想が制限されてしまうような機運もありますから。

<委員>

教科書としてノートがありますから、使わないというのはダメなんです。

<会長>

他にございますか。それでは、道徳の教科書については、報告のとおり「東京書籍」の教科書を採択するという事によろしいでしょうか。

<委員>

「東京書籍」はコンテンツが充実しているということで見えたのですが、デジタルノートとこの違いがあり、内容は同じように感じました。

<会長>

では、「東京書籍」でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

では、こちらの理由書で決定いたします。

調査報告書配布

特別支援教育調査部長入室

<会長>

それでは、特別支援教育部会の調査報告をお願いします。

<特別支援教育調査部長>

それでは、特別支援教育調査部会からの報告をいたします。

A3判の調査報告書をもとに主に変更図書を中心に説明いたします。よろしくお願いたします。

報告に入る前に、この特別支援学級教科用図書は、毎年選定を実施することとなっています。

根拠となるのは、「学校教育法附則第9条」及び「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」及び「その施行令」となります。

特別支援学級で使用する教科用図書は、市町村教育委員会で種目ごとに複数採択します。

種目とは、教科用図書の教科ごとに分類された単位のこととして、教科用図書無償措置に関する法律とありまして、結局のところ教科のことです。

また、検定教科書及び文科省著作の教科書の採択期間は、特別に事情がない限り4年となっております。小学校用教科書は令和2年度から、中学校用教科書は令和3年度から採択されていますので、令和5年度は、令和4年度と同じものを選定することを基本とします。

ここで、文科省著作の「特別支援学校（知的障害）用教科書」は、☆の数により、使用する学年が基本的に決められていますので、それに従い選定しています。

では、調査結果報告書について説明いたします。

調査結果報告書をご覧ください。教科名の横にカッコ書きでA型とB型と入っているかと思えます。A型というのは、障害の程度が比較的軽い児童生徒を対象としています。B型というのは、障害の程度が比較的重い児童生徒を対象としています。

基本的には、A型については、検定教科書当該学年用及び検定教科書下学年用から主に選定しています。B型については、特別支援学校用文科省著作教科書及び一般図書から主に選定していますが、教科の特性や状況により検定教科書を選定する場合があります。一般図書につきましては、書店で販売されている書籍、学習内容ごとに選定していますので複数冊選定しています。

なお、選定にあたりましては、検定教科書及び文科省著作の教科書は、特別に事情がない限り、変更はございません。

一般図書に関しましては、昨年度選定したものをもとに、観点や児童生徒の障害の程度や実態に合っているものであるか、また通常の学級との交流の状況などの点を十分に考慮し、実態等に即していれば、これまでの継続の状況を考慮し、変更はしておりません。調査部としてそのような形で選定いたしました。

しかしながら、一般図書に関しましては、絶版になってしまったり、在庫がなくなったりして、令和6年度の供給が不可能なものが出てきますので、それに関しては、別の一般図書を調査し選定いたしました。

では、まず小学校教科用図書について報告いたします。

令和5年度と教科用図書が変更のない教科について、教科名を確認いたします。国語・書写、算数、音楽、図画工作、家庭、外国語、特別の教科道徳となります。

社会については、選定し直した使用教科書がありますので報告いたします。調査報告書の1枚目をご覧ください。B型の2番目の一般図書です。「名人はっけん！まちたんけん④まもるひと」を選定しました。以前の図書のイラストが抽象的でイメージが湧きにくいこと、時代に即していない点から見直しました。今回選定した図書は、写真を多く使用していて、視覚的に理解できること、身近な職業である点から選定しました。次に6番目の一般図書です。「絵で見る日本の歴史」は、資料を読み取る力が乏しい児童には難しいことから、絵や言葉で分かりやすく構成されているものを選定しました。

次に、理科について選定し直した使用教科書がありますので報告いたします。調査報告書の2枚目をご覧ください。理科のB型の2番目の一般図書です。「学研の図鑑LIVE ポケット昆虫」を選定しました。観察のときに外に持ち運びやすいことと、時代に即しているということで、タブレットまたはスマートフォンでこちらをかざすと動画が浮かび上がって、3DCGで見られるような図書となっています。また、今年度まで使用している「小学館図書NEO〔新版〕昆虫」は令和6年度の供給が不可能となりましたので、それに代わり選定しました。タブレット端末を使っている児童にとっては、とてもいい本ではないかと思ひ選定いたしました。

続きまして、保健について説明します。「からだのしくみ絵じてん」を選定しました。今年度まで使用していた「しかけ絵本の本棚からだのなかとそと」は、絵本仕立てで押さえるべき要点が明確ではなかったため、絵や文字がはっきりわかりやすい図書を選定しました。

小学校教科用図書についての報告は、以上となります。

それでは、中学校教科用図書について報告いたします。

令和5年度と教科用図書が変更のない教科は、国語・書写、社会の地理、数学、音楽・器楽合奏、保健体育、外国語（英語）、特別の教科道徳、技術・家庭です。

社会（歴史的分野）、公民、地図、理科、美術、職業・家庭については、選定し直した教科用図書がありますので報告いたします。

まず、社会の歴史的分野です。1枚目をご覧ください。歴史的分野のB型の一般図書の1番目と2番目、小学館の「キッズペディア歴史館」とパイインターナショナルの「はじめての日本のれきしえほん」を選定いたしました。昨年度まで使用していた2冊が来年度供給不可能となりましたので、それに代わり選定しました。どちらも豊富な写真やイラストが多くあり、分かりやすく構成されています。

次に、社会の公民的分野です。B型の2番目をご覧ください。小学館の「日本まるごとガイドブック」を選定いたしました。社会生活を営む上で必要な内容が、図やグラフで分かりやすく説明されています。前年度選定されていた「あたらしい法りつのほん2018」は、社会福祉サービスに特化した内容だったため、この本を職業・家庭の一般図書として選定しています。同じく社会の地図についても、より障害の程度の重い児童の指導に適している図書を2冊加えました。

次は理科についてです。以前B型で選定していた学研プラスの「学研の図鑑LIVE植物」と「学研の図鑑LIVE人体」が供給不可のため、成美堂出版の「やさしくわかる小学生の理科図鑑」と講談社の「動く図鑑MOVE人体のふしぎ」を選定しました。どちらも写真やイラストを多く使い、分かりやすく掲載されています。

続きまして、美術について説明します。前年度のポプラ社「あそびのひろば1 はんがあそび」に代え、これまで取り入れていなかった鑑賞についての一般図書を選定しました。興味をもって世界の傑作を鑑賞することができ、美術への関心が深まるようになっています。

続きまして、職業・家庭についてです。前年度は「お料理大好き！新・こどもクッキング」が選定されていましたが、材料や工程が視覚化されている成美堂出版の「小学生のお料理レシピ」を選定しました。さらに岩崎書店の「やさいのうえかたそだてかた」に代え、開隆堂出版の「職業・家庭 たのしい職業科」を選定しました。園芸だけでなく、多岐にわたって将来の夢につながる内容の図書になっています。

中学校教科用図書についての説明は以上となります。

全体的に見直しを図り、現在の教育事情を鑑みた選定を行いました。

最後になりますが、この場を借りまして、調査部員が協力して滞りなく調査を実施していただきました。誠に感謝の限りでございました。

また、ものすごい数の一般図書の在庫や絶版等の情報を事前に調査いただいた事務局の皆様も大変だったかと存じます。本当にありがとうございました。

以上で、令和6年度使用小中学校特別支援学級知的障害者用図書の第4採択区調査部会の報告を終わります。よろしくご検討をお願いいたします。

<会長>

それでは、質疑に入ります。ご質問などあればお願いいたします。

<委員>

B型で選んだ図書は、各小中学校にすべて配布されるものなんですか。

<特別支援教育調査部長>

B型というのは、障害の程度で重い子供なので、学校に対象の子供がいれば選定できると思うのですが、通常の学校の特別支援学級では、そこまでの数は少ないと思われます。なので、A型の方が数としては多いかと思えます。

<委員>

実際にどのくらいの児童生徒がB型の図書を利用しているかっていうのはわかりますか。

<特別支援教育調査部長>

すみません。わかりません。

<委員>

利用するときには、今回選んだ教科書を使ってくださいというものを選定しているということですね。

<特別支援教育調査部長>

はい。そうです。

<会長>

私からよろしいですか。B型の社会科6年生の教科書「はじめての日本のれきしえほん」は、中学校の社会科のB型で使用するものと同じですか。

<特別支援教育調査部長>

障害が重い場合には、下学年の内容に教科書を変えることができます。小学生用などのタイトルがついている場合もありますが、中学生でも優しい内容として選定する場合があります。今回はそのような形で選定いたしました。

<会長>

例えば小学6年生でB型の教科書を給与された子が、中学生になったときに同じ教科書が給与

されることがあるということですか。

<特別支援教育調査部長>

選定によってはそうなる場合もあります。1年間ですべてを終えられない子もいたり、反復で行ったりする場合があります。1冊を何年間かけて行う場合もあります。

<会長>

他にございますか。なければ、質疑を終了いたします。

調査部長さんには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

特別支援教育調査部長退室

<会長>

では、審議をいたします。委員の中で、なにかご意見のある方はいらっしゃいますか。

<委員>

実際に使ってみてどうだったのかというフィードバックがあり、継続するか変更するかという話になると思うのですが、今どういう方がどのように使っているか分からない状態で、審議を行っている状況だと思います。今後、選定委員会をやるときに、実際に使ってみての感想なども調査してみると、より良くなるのかなと思います。

<会長>

おっしゃるとおりだと思います。子供達が実際にその教科書をどのような気持ちで使っているのか、また、その教科書でどんな成果がでたのかなど、なかなかみ取りができていない状態で教科書を採択していかなければならないのは苦しいと思います。しかし、8月の初旬には来年度必要な教科書の需要数の調査が入ります。

選定が終わり次第、来年度必要な教科書の予定数の報告がありますので、なかなか実際に子供達の状況を把握できる時間が少ないという現実があります。ただ、おっしゃるとおりだと思います。

他にございますか。

それでは、報告のとおり選定するというところでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、採択理由書について検討をお願いします。

採択理由書（案）配付

<会長>

何かご意見はございますか。

なければ、こちらの理由書でよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、こちらの採択理由で決定いたします。

以上で、採択についての審議・議決は終わりにいたします。

続きまして、中学校用教科用図書について確認をさせていただきます。

中学校教科用図書選定結果（案）を配布

<会長>

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同施行令により、種目ごとに同一の教科用図書を採択する期間は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、特に事情がない限り4年となっております。中学校用教科用図書は令和3年度から採択されており、現時点では特段の事情がないと思われますので、令和6年度は今年度と同じものを採択することとなります。

よろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、（案）をお消してください。

続いて、採択結果及び理由等の公表について審議いたします。事務局より説明をいたします。

<事務局>

採択結果及び理由等の公表について説明いたします。公表について、要綱5ページ規約の「第

5章 議事録及び資料の公表」をご覧ください。情報開示については第14条のとおりでございます。公表に関しては、第15条に述べられているように、当該教科用図書の種類、当該教科用図書を採択した理由、第12条の第2項の資料(調査報告書)、協議会の会議の議事録、以上4点となります。

この公表については、「当該教科用図書の種類」「当該教科用図書を採択した理由」はデータで各教育委員会に送付しホームページ上にアップロードしていただきます、「調査報告書」、「議事録」は事務局である城里町教育委員会でアップロードします。

また、「議事録」に関しては城里町で取りまとめた後、各教育委員会に確認をしていただき、公開したいと考えております。そのため、規約には「速やかに」とありますが「当該教科用図書の種類」等のアップロードより、遅くなることと思いますのでご了承いただけましたら幸いです。

以上です。審議のほどよろしくお願いいたします。

<会長>

事務局より公開について説明がありました。教科用図書の種類については、各教育委員会でアップをしていただきます。そして、資料、協議会の議事録については、事務局である城里町でアップいたします。そのようなことでよろしいでしょうか。

<委員>

異議なし

<会長>

それでは、第4採択地区の公表は、そのようにいたします。

以上で全ての審議を終了いたします。その他、何かありますでしょうか。

それでは、以上で議事を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

<事務局>

添田会長ありがとうございました。

それでは、事務局より要項にございます今後の予定について説明いたします。

各市町の教育長様には、本日の結果を、各市町教育委員会へ御報告をお願いいたします。今回、選定されました教科用図書一覧表の電子データを、作成後に各市町の事務局様に電子メールで送信いたします。

議決内容につきましては、7月26日水曜日までに、各市町教育委員会から議決をいただきますようお願い申し上げます。なお、議決が済みましたら、採択教科用図書一覧表を事務担当者にお渡ししたいと存じます。

各市町の議決の報告でございますが、同じく26日水曜日までに、文書で報告願います。なお、文書による報告が遅れる場合は、城里町教育委員会学校教育グループ宛に、議決した旨、FAX

にて連絡をいただければ幸いです。

最後に本日の資料ですが、教育長様のみ各市町教育委員会保管用として、お帰りの際にお渡しいたしますのでよろしく願いいたします。説明は以上となります。

それでは、「閉会のことば」を 本選定協議会副会長 小美玉市教育委員会教育長 羽鳥 文雄 様お願いいたします。

(小美玉市教育委員会 羽鳥教育長)

～閉会のことば～

閉会時間 午後 4 時40分